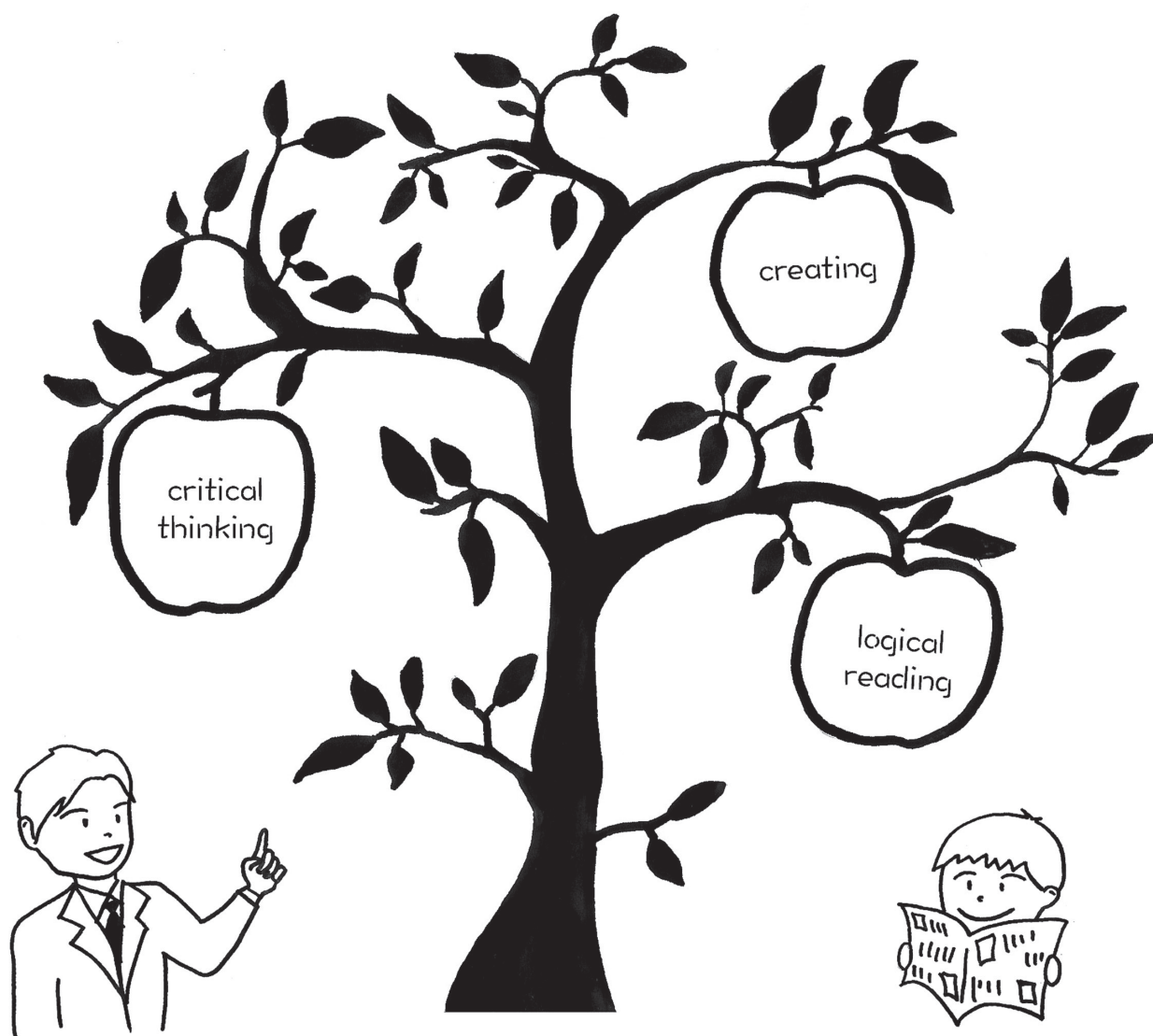


教育に新聞を

NIE 実践報告書

2025 (令和 7) 年度



目 次

【あいさつ】「現代社会におけるNIEの必要性」

2025年度熊本県NIE推進協議会会長 西方 浩一	1
---------------------------------	---

【実践報告】

菊池市立泗水小学校	2
菊陽町立菊陽北小学校	8
菊陽町立菊陽南小学校	14
熊本市立向山小学校	19
熊本市立芳野中学校	23
五木村立五木中学校	30
熊本県立球磨中央高等学校	36

「現代社会におけるNIEの必要性」

2025年度熊本県NIE推進協議会会長

(熊本県小学校長会会長・熊本市立帯山小学校校長)

西方 浩一



今年度、熊本県NIE推進協議会会長として参加した総会、実践発表会、講演会についてそれぞれ私見を交えながら振り返ってみたい。

昨年6月に本会総会が行われた。冒頭の会長挨拶で「毎朝、リビングでコーヒーを飲みながら新聞を広げ、教育関係の記事を中心に目を通すことが私のルーティーンになっており、至福の時間である」という話をした。それまで「新聞は、紙で読むもの」というのが私のイメージであった。しかし、総会の中で、県内に拠点を置く新聞6社・通信2社では、紙の新聞にとらわれることなく、デジタル版の普及にも努められていると聞いた。実際、私が勤める学校の職員に「今日の新聞読んだ？」とたずねると「ネットで見ました」と返ってくるのが少なくない。NIEにおいても、広い視野で、新聞を教育現場で活用する取り組みを行う必要性を感じることができた瞬間であった。

昨年11月には、菊陽町立菊陽北小学校で行われたNIE実践発表会（公開授業）を参観した。まずは、6年2組の子どもたちと担任の杉谷優太教諭が繰り広げる、楽しく生き生きとした算数科の授業に感嘆した。子どもたちは、代表値（平均値、中央値、最頻値）について学習した後、新聞記事に当てはまる代表値を自分自身やペアで考え、全体で意見交流をし、その使い分け方を理解していった。

「何のために勉強するのか？」という子どもたちの素朴な疑問は、学校教育において永遠の課題である。今回、新聞記事を用いることで、子どもたちは、世の中で使われている代表値を目の当たりにし、身近な社会を考えるためにも代表値が必要であることを実感したはずである。授業終盤の活動で新聞に戻る、つまり、現実社会に戻し、つなげることで、学習する意味を体得できたのではないだろうか。NIEのこれからを示してくれた素晴らしい授業実践であった。

また今年1月末に、NIE講演会に参加した。NIEの第一人者である島根大学教育学部の紙田路子准教授の講演「人をつなぐ、対話を深めるNIE～『社会的寛容性』からみるマスメディアの再評価～」は、大変示唆に富むものであった。「若者にも新聞を読んでもらいたい」という講師の熱い思いに基づく実践は、とても説得力があった。特に、「インターネットをはじめとするデジタル情報よりも新聞が優位である『一覽性』をNIEに生かす」という提言に、小学校教育をあずかる自分としても大いに納得した。また、「メディアの歴史から考えて、文明の発達に伴いパーソナルメディアからマスメディアに変わってきたが、逆行している現代社会において、新聞をはじめとするマスメディアを再評価することが急務である」というお話に、NIEの更なる重要性を感じた。

今年度の本協議会の活動を通して、「今、このような時代だからこそNIEが必要である」という認識を新たにした。良さを継承しつつ、形を変えながら、今の時代に合ったNIEとなることを願って止まない。

「新聞」を通して社会とつながり自分の見方・考え方を深める 児童の育成を目指して

菊池市立泗水小学校 職員一同

1 はじめに

本校は、熊本県菊池市の南に位置する児童528名が在籍する中規模校である。校内研究では「児童全員が『分かった』『できた』を実感する学習の工夫」を主題とし、各教科で「学び合い」を取り入れた学習を工夫することで、児童の主体的な学習の実現を目指している。「学び合い」の積み重ねによって、教室では自分の考えを友だちに積極的に伝えたり、問題が分からない場面では素直に友だちに聞いたりするなど、他者に目を向け互いに関わり合う姿が多く見られるようになった。

しかし、日常においては自分自身のことしか考えずに行動する場合が見受けられ、地域社会の一員という自覚が薄いことが課題であった。児童が地域社会の一員として成長し、地域とのつながりの中で見守られ、支え合いながら地域と主体的に関わっていく力を育むことができないか。そのような思いで委員会活動等での取り組みを始めた頃、「NIE実践指定校」として指定を受ける機会に恵まれた。新聞を活用することで、児童が社会とのつながりを感じるきっかけを作ることができるのではないか。また、社会の出来事を自分事として捉え、自分にできることを考え、行動する力がつくのではないか。実践指定校となった1年目の今年は、まず、新聞に慣れ親しむことや楽しく活用することを目指し、以下のような取り組みを行った。

2 具体的実践について

(1) 新聞に親しむ環境作り

本校のほとんどの児童が新聞に触れた経験がなく、新聞への関心も高いとは言えなかった。そこで、まずは新聞への興味関心を高める環境

作りに取り組むこととした。

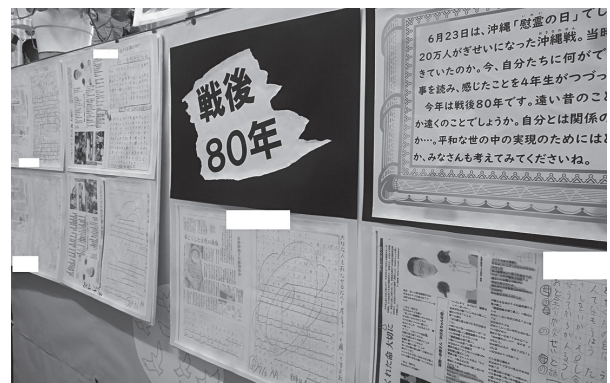
① NIEコーナーの設置

図書室に「NIEコーナー」を設け、5月からNIE事務局より提供いただいた朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、日経新聞、西日本新聞、熊本日日新聞の6社分の新聞を閲覧できるようにした。複数の新聞社の記事を並べて置くことで、同じ事柄を取り上げていてもその伝え方が少しずつ異なることが分かるようにした。



「NIEコーナー」の様子

また、「NIEコーナー」には、家庭学習等で新聞記事を活用した児童のノートと一緒に掲示するようにした。設置後は、児童が図書室に来た際に新聞を眺めたり、職員が授業で活用できそうな記事がないか新聞を手を取ったりする姿が見られるようになった。



児童のノートの掲示コーナー

②児童への出前授業の実施

NIE事務局の熊本日日新聞社の担当者を招き、5年生児童を対象に出前授業を行った。5年生児童は、事前に国語科「新聞記事を読み比べよう」の単元で、書き手の意図を考える学習をしていた。出前授業では、実際に記者の方に記事の書き方や書き手としての思いや工夫を語っていただいたことで、書き手が伝えたい事柄に合わせて情報を選択したり、見出しや写真で伝え方を工夫したりしていることを知り、学びを深めることができた。



出前授業の様子

新紙幣発行に関する記事の読み比べでは、全国紙と地方紙では、どのように伝え方が異なるのかを読み取った。児童からは「熊本の地方紙では、千円札の北里柴三郎について特に詳しく書かれている」「熊本の地方紙では熊本の銀行での写真が使われている」などさまざまな気づきが出た。このように児童は、出前授業によって、読み手のことを考えた書き方の工夫について具体的に学ぶことができた。また、新聞の発行にあたっては、多くの人たちによるファクトチェックが行われていることも教えていただき、情報の信頼性が高いという新聞のよさについて知る機会にもなった。



記事の読み比べの様子

③職員研修の実施

児童だけでなく、若手教員の多い本校では職員もまた新聞に触れる機会が少ない。また、NIEに対する理解も職員によってばらつきがあった。そこで、NIE先進校からNIEアドバイザーを講師として招き、NIEに関する研修を行った。他のメディアとの違いや情報活用能力の育成について学びを深めるとともに、NIE実践に向けて職員の意識が高まった。



職員研修の様子

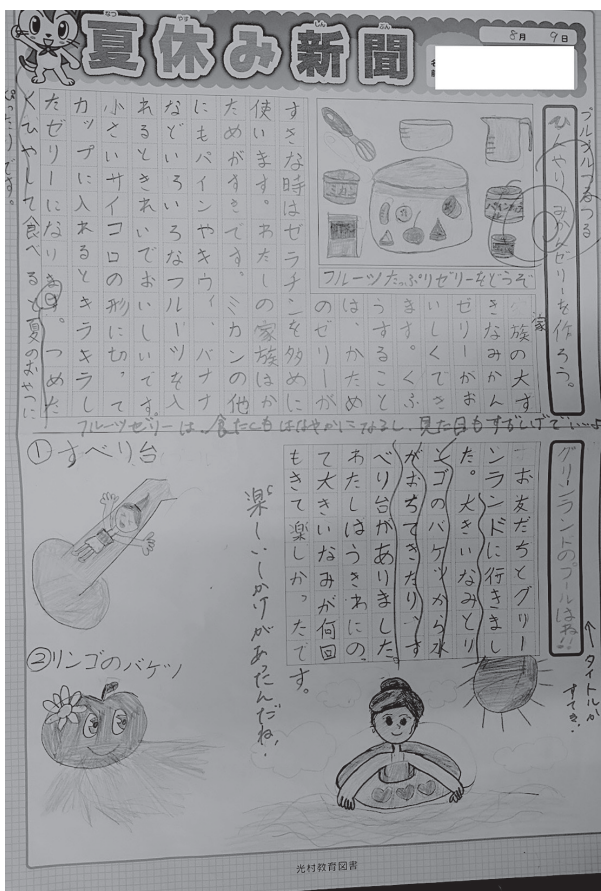
(2)新聞の日常的な活用

①家庭学習での活用

3年生では、夏休みの課題に「夏休み新聞」

を設定し、「楽しかったこと、発見したことなどを分かりやすくまとめよう」と指導した。また、実際の新聞を見ながら「見出し」や「割り付け」の必要性について考えさせた。

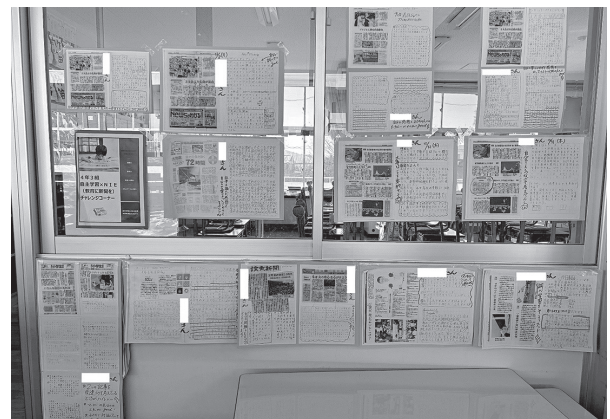
児童の作品を見ると、目を引く「見出し」や、関心を引くように写真や図を用いたものが多く見られた。また、新聞の持つ「何かを伝える」役割を意識し、言い回しを工夫するなど伝える相手側の意識を持った作品も見られた。



児童の書いた夏休み新聞

4年生においては、毎日の家庭学習の内容の一つとしてNIEの活用に取り組んだ。学年の廊下に、「NIEコーナー」を設置し、児童が自由に新聞記事を取って学習に活用できるようにした。「NIEコーナー」に置いた新聞記事は、「毎日小学生新聞」の中から各教科等の学習と関連が深いものや、時事的ニュースの中か

ら児童にぜひ考えてほしいものを教師が意図的に選び、コピーしたものである。更に、児童の取り組み内容を見童同士で見ることができるよう「掲示スペース」を設けた。基本的には、任意の取り組みのため、全員が取り組んでいるわけではないが、一度だけ「NIEコンテスト」と称して全員が同じ記事で取り組む日を設定した。



4年生「NIEコーナー」



児童の家庭学習ノート

取り組みを通して、進んで新聞記事を読む児童が増えたり、その際に児童同士で記事の内容について自然と対話が生まれたりするようになった。また、児童から「こんな記事がほしいです」と要望が出たり、家庭で取っている一般の新聞を活用する児童も出てきたりするなど、社会の出来事に対する関心が高まっている様子が見られた。

(3) 授業におけるNIEの実践

① 1年生の実践

1年生図工「ならべてみつけて」の学習では、身近なものを並べて何かに見立てたり、その連続性を楽しんだりする造形遊びの題材として新聞を活用した。児童は新聞を並べたりちぎったりしながら、「ちぎる時の音が面白いな」「つなげるとくねくね道ができたよ。歩いてみよう」「線路みたいにも見えるね。電車が通ります」と自分なりにイメージを膨らませ、遊びを楽しんでいた。新聞紙をねじったり、破ったりすることで、さまざまな形に変えられるところ、体を包めるところなどを造形遊びの中で発見しながら、自分なりのイメージを発想し、それをさらに表現することをくり返していた。児童が、読むだけではない、新聞との関わりを楽しむことができた活動だった。



造形遊びの様子

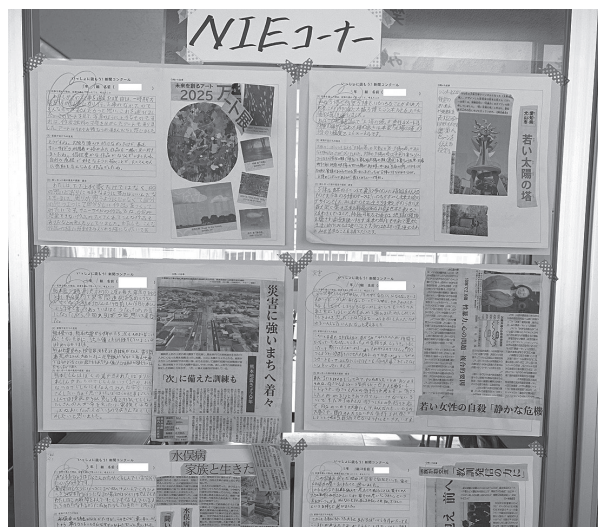
② 5年生の実践

5年生国語「新聞記事を読み比べよう」の学習では、書き手の意図を考える授業を行った。学習を終えた後も、新聞に慣れ親しむために、図書の時間を活用して新聞に触れる機会を設けた。その際、自分が興味を持った記事を切り抜き、記事を読んだ感想を友だちや家族と話し合えるようにした。大阪万博や熊本地震など、児童によって選んだ記事はさまざま。それらを読んで感じたことを話し合ったことで、同じ記事を読んでも捉え方は人によって異なることや、対話によって自分の考えが深まっていくことに気付かせることをねらった。



記事を選ぶ様子

その後は、廊下に学年の「NIEコーナー」を設け、児童が読んだ記事の切り抜きと話し



5年生の「NIEコーナー」

合った内容をまとめたものを掲示している。掲示場所では、友だちが選んだ記事を眺めたり、「これ知ってる!」と近くの友だちと話したりする児童の姿が見られている。新聞が対話を生み、対話によって児童が考えを深めていくという、本校の研究テーマの「学び合い」につながる姿がそこにあった。

③ 5年生の実践

5年生理科「台風と防災」の学習では、単元の導入時に地方紙の記事を活用することで、児童の興味関心を高めるとともに、これから学習する自然事象を身近に起きたこととして捉えさせることをねらった。

2022年9月、熊本県内を通過した台風14号による被害が掲載された記事を提示すると、児童からは「この台風覚えてる」「天草の写真だ。波がすごく高いね」と写真や見出しから自分の住む県と台風との関わりに気付く声が上がった。次に、記事の中の数値に注目するように声を掛けると、「風速38.1mと書いてある。どれぐらいの風なんだろう」「2万8630戸停電と書いてある」と実際の被害について読み取っていた。それらの気付きから、台風によって気象がどのように変化し、それによってどのような影響があるのかという単元全体の学習課題を作ることができた。新聞記事によって身近な地域の出来事を取り上げることで、児童の学習意欲が喚起され、より自分事として問題解決に取り組む姿につながった。

④ 6年生の実践

6年生の総合的な学習の時間「平和な世界をめざして」の学習では、児童が調べ学習に入る前に、新聞に掲載されていた沖縄戦の記事を紹介した。



授業で提示した記事

修学旅行では、長崎へ行き原子爆弾を投下されたことによる被害について学ぶのだが、今回取り上げたのは沖縄戦に関する記事だった。多様な戦争の被害について考えさせることで、児童からは「沖縄でもこんなに被害があったなんて知らなかった」「普通の生活をしていた人たちがなぜ犠牲になったのだろう」と、戦争の理不尽さや疑問を抱く声が上がった。

単元の終了時には、自分たちが調べたことや考えたことを多様な表現方法から選択してまとめる活動を行った。新聞を選んだ児童の中には、平和学習で学んだことについて、「平和な世界をつくるには」という社会の一員としての視点で読み手に訴える記事を書いた児童がいた。記事の中では、語り部の方からの「今の生活は当たり前前ではない」という言葉を自分なりに受け

止め、「一日一日を大切にしていきたい」とつづっていた。

3 成果と課題

①成果

- 「NIEコーナー」の設置によって、家庭で新聞に触れる機会のない児童へ新聞に触れる機会を保障することができた。それにより、新聞記事の存在が身近になり、日常的に社会の出来事やニュースの内容に関する話題が増えた。また、職員が「NIEコーナー」へ行き、授業や家庭学習で活用する記事を見つけるなど、教材としての活用を促進する場となった。
- 単元の導入や終末、家庭学習の場面で教師が意図的に新聞記事を取り上げたことで、各教科で学習した内容と実際の社会の出来事とを関係付けて考える経験を積ませることができた。
- 家庭学習でNIEの活用を図ったことで、新聞記事の内容について家族で対話したり、インタビューをしたりする活用例も見られた。
- 継続して取り組むことで、記事に対する自分の考えをまとめる力が向上した。

②課題

- 「NIEコーナー」に行く児童を更に増やしていきたい。そのために、ただ新聞を並べるだけではなく、ピックアップ記事を掲示するなど、意欲を高める工夫をしていく必要がある。
- NIEを通してどのような力をつけていくか、次年度は更に焦点化していく必要がある。
- 読むことへの抵抗があり、新聞記事を読むことが少ない児童でも取り掛かりやすい活用方法の模索が必要である。
- 新聞スクラップをする際の形式を統一してい

なかった。読解力、思考力、表現力向上のため、活用の手引きを各学年に応じて作成する必要がある。

4 おわりに

「NIE実践指定校」の指定を受け、1年目を終えた。今年度は子どもたちが新聞に親しむ環境作りを中心に取り組んできたが、その後の活用については各学年に委ねてしまった部分が多い。今年度、各学年が行ってきた実践を集約し、どのような場面での活用が効果的だったのか全職員で共有し、次年度へとつなげたい。

また、今年度の取り組みを踏まえてNIEを通してどのような力をつけていくかを改めて協議し、児童の力につなげていきたい。

進んで考え、表現する児童の育成

～効果的な新聞活用を通して～

菊陽町立菊陽北小学校 職員一同

1 はじめに

本校は、熊本県の北部に位置しており、全校児童約600名の中規模校である。令和6年度より、NIE実践指定校となっている。校区に大手企業の工場があり、近年、先端半導体の受注生産で世界最大手の台湾企業TSMC（台湾積体回路製造）の工場が建設されるなど地域の変化が激しく、人口も急増している。

本校では、学校教育目標を「夢を持ち、夢をはぐくみ、夢を実現する教育へのチャレンジ！～考動力～」と掲げ、毎日の授業や教育活動を行っている。今年度は「進んで考え表現する児童の育成～情報活用能力の育成に焦点を当てた授業づくりを通して～」というテーマで校内研修を行っている。今年度は、これまでの取り組みを土台として、新聞を活用したさまざまな授業への挑戦と表現力の向上への取り組みなどを行った。

2 取り組みの実際

(1)新聞の日常的な活用

本校のほとんどの児童は「新聞を読んだことがない」「家でも新聞をとっていない」という現況で新聞との関わりがほぼない。日常生活の中で楽しく気軽に新聞との関わりを持つ機会を設定した。

①新聞の設置場所の工夫

まずは新聞が目につき、いつでも読める環境をつくることで、新聞との関わりを増やすようにした。高学年では、玄関前に設置することで、友だちを待っている時間や休み時間に新聞を手にとって読む姿が見られた。低学年では、トイレの近くの壁に設置することで、トイレの待ち

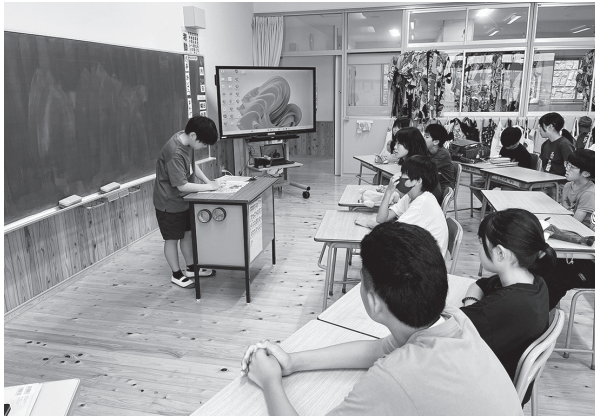
時間に子ども同士、記事について話す姿があった。また、図書室前に新聞をストックしておく棚を設けたことで、入室待ちの時間や休み時間に新聞を手にとって記事を読む姿が見られた。



図書室前の新聞コーナー

②朝活動での活用

朝の会において日直がその日の新聞記事を選びクラス全体に紹介するという取り組みを行った。児童は朝からいくつかの会社の新聞からクラスのみなかに紹介したい記事を選んでいった。「今日ニュースでこの事件をやっていたからこれにしよう」「菊陽町のことを伝えているからこの記事にしよう」など自分の生活と新聞記事をつなげて紹介する姿があった。また、途中から1分以内に要約するルールを付け加えたことで、「この記事の一番伝えたいことは何だろう?」「この部分の意味がわからないんだけど教えてくれる?」など、記事の内容をじっくり読む姿や自分だけでなく周りの友だちと協力して新聞を読む姿があった。さらに、発表に対する感想交流の時間を設定したことで、一日一人の新聞活用ではなく、クラス全員の学びへとつながった。



朝の会での新聞スピーチ

③委員会新聞

新聞を活用した表現力向上と児童会活動の活性化のため委員会では毎月、新聞を作成した。毎月の委員会の時間に、委員会新聞で伝えることを話し合う時間を設定することで、委員会からの呼びかけや企画などを意識して活動するようになった。また、新聞の当番になった児童はタブレットを使って記事を書いていくことで表現力を高めるきっかけとなった。当番は複数体制にし、悩んだときは掲示してある新聞を参考にしながら書くようにした。記事を書くために友達と協力したり、新聞記事の書き方について必要感を持って書いたりできるようになった。



委員会新聞の掲示

児童会執行部 新聞

5月9日
第1号

運動会のスローガン
をきめます

運動会のスローガンに入りたい言葉をばしゅします。
それぞれのクラスに紙をくばりに行くので、5月12日までにクラスで話し合ってください。
ぼしゅした言葉の中から、話し合っいてと思った言葉をつなげてスローガンにします。
みなさんのたくさん言葉で、やる気あふれるすばらしいスローガンを作りましょう

代表委員会予定

- 五月・児童会スローガン
- 五月・運動会スローガン
- 六月・北小の種目改善案
- 六月・北小のマスコット
- 七月・キョウター決め
- 九月・学校の決まりについて
- 十月・未定
- 十一月・全校全校遊びについて
- 十二月・未定
- 一月・未定
- 二月・未定
- 三月・今年の成果と課題
- 三月・来年度目指す学校像
- 三月・未定
- 未定の部分は次の集出しでアンケートの欄をします。

児童会執行部とは

児童会執行部とは毎月1回ある児童集会を運営する委員会です。他にはこれも毎月1回ある代表委員会の司会や結論などを出す今年できた新しい委員会です。次の児童集会は5月15日にあります。委員長さんのお話があります。しっかりと聞きましょう。

代表委員会の内容をききます

前の見出しで未定のところは各委員会、各クラスで募集をしたいと思えます。アンケートの紙は配りません。応募の仕方は児童会執行部の六年生に言ってください。

六年一組いわまかえで
ときよいおり
六年三組せきりようた
さかぐちあつし
かわきたかりん
みちわきりおな
にいます。

それが六年二組の担任の杉谷先生か五年三組担任の井戸先生にいつてもいいです。締め切りは6月の委員会がある時までです。

みなさんで代表委員会のやることを決めて北小を盛り上げていきましょう。そしてアンケートへの協力もどうぞよろしくお願いたします。

委員会新聞の内容

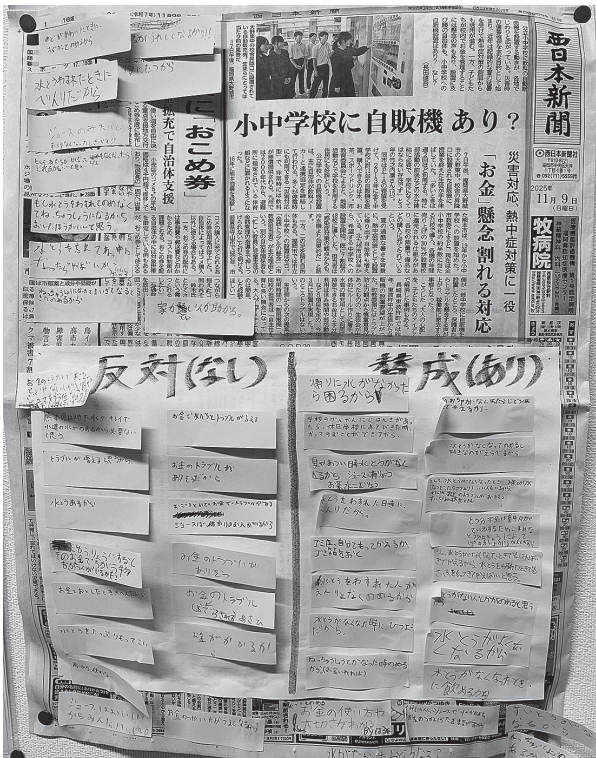
④付箋討論

新聞記事に関心を持ち、それを通して自分の意見を交流するきっかけをつくるために新聞記



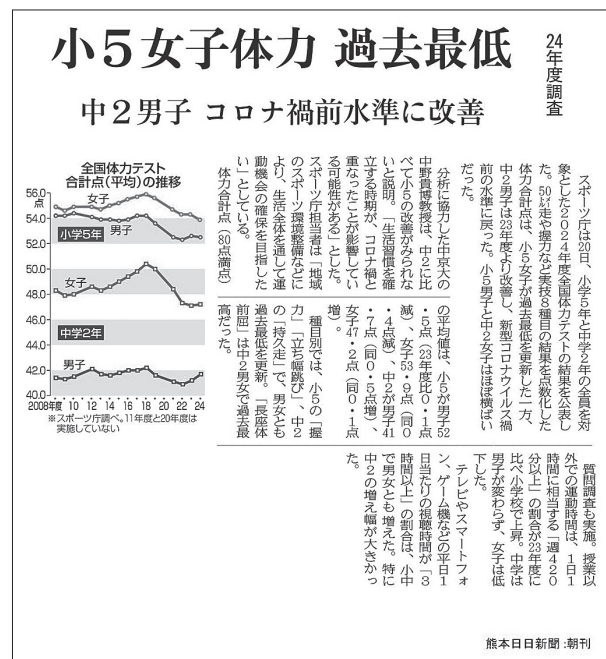
付箋討論の様子

事を使った付箋討論を行った。児童が通る廊下の壁に意見の分かれる記事を掲示し、その下に賛成と反対に分けて付箋を貼るスペースを作った。例えば、「学校に自動販売機を設置する」という記事に対しては「最近熱中症が危ないから賛成です」「お金の問題がありそうだから反対です」など、記事と自分の生活をつなげて意見を書いていた。また、廊下に掲示し鉛筆を常備することで、通りすがりの色々な学年の児童が参加していた。



付箋討論の掲示物

本時の授業では、これまでに習った代表値の使い分けの仕方について学習した。授業の前半では、「A社とB社の平均年収からどっちの会社に入りたい?」という問いや「靴屋のサイズ別仕入れ量はどのサイズを多くするとよい?」という問いから平均値と中央値と最頻値を見ることのそれぞれのメリットとデメリットを考えた。後半では、代表値の書かれた新聞記事の代表値の部分を隠して「どの代表値が書かれているかな?」という問いを考えていった。児童はこれまでに学習したデータの見方をいかしてペアやグループ、全体で隠された代表値を一生懸命考えていた。



平均値についての記事

=2024年12月21日付・熊本日日新聞

(2) 授業における活用

① 6年生「データの整理と活用」

6年生算数科「データの整理と活用」の授業において新聞活用の実践を行った。本単元では、日常の事象を統計的な問題解決を用いて解決したり、データを整理し、代表値（平均値・中央値・最頻値）からデータを批判的に判断したりすることをねらいとしている。



記事の代表値について話し合う様子

【児童のやりとり】

中央値の記事について

- C：Aの記事は中央値です。
 C：え～なんで？
 C：だって、下の方にある字を見ると
 200、1100とかになっていて差が大きいからです。

平均値の記事について

- C：Bの記事は平均値にしました。
 C：0.5とか0.1とか近い数字が出てきて差が小さいから。
 T：さっきのAの記事の差は？
 C：900でした。
 T：体力テストの差は何点くらい？
 みんなは何点だった？
 C：60点とか、70点とか。
 T：やる気ない人がやったら？
 C：0点。0点はありませんよ。でも明らかに差が小さいから平均値です。

最頻値の記事について

- C：直前に「平均初婚年齢」と書いてあるから平均ではないです。
 T：どういうことかわかる？
 C：2回連続で言うのはおかしいよ。「平均の平均」ってなっちゃいます。
 C：さらに記事には「平均初婚年齢は上昇しているものの」って書いてあって、これは言い換えると上昇しているけど、男性27歳と女性26歳が多いってことになります。
 C：どういうこと？
 T：この記事が言いたいことは何？
 C：(記事を読む)若い人も多いと言いたいんだと思う。
 T：実はこんなデータもあります。
 (2024年の平均初婚年齢は男性31歳、女性は29歳)
 C：それよりこの記事の数値は若い。
 C：ということは、若い人が多いと言いたいから最頻値が正解だ。

この児童のやりとりでは、児童が前回の授業時まで学習したデータの見方や判断の仕方、代表値の意味をもとに進んで新聞記事を読み、記事を根拠に判断したことを説明し合っていた。中央値の記事では、記事の数値を見つけ、それをもとに差が大きいことを導き出した。平均値の記事では、数値と自分達の体力テストの点数から差が大きくなることに気づくことができていた。最頻値の記事では、数値だけでなく「～しているものの」という言葉に着目して記事が伝えたいことを考え、それをもとに代表値を判断することができた。

【児童の振り返り】

- ・今日は代表値の使い方を考えることをがんばりました。とても難しくて頭をフル回転させたけれど、最後はすっきりしました。
- ・友だちの意見を聞いて、新聞の読み取り方がすごいなと思いました。みんなを説得するために新聞を一生懸命読みました。ここまで考えて記事を書く記者さんがすごいと思いました。
- ・これから平均年収のニュースを見るときは気をつけようと思いました。その点、新聞は誤解がないようにしっかり考えられているのだなと思いました。

児童からは上記のような振り返りが見られた。授業中、新聞記事を意図を持って読んでいたことがわかる。また、その新聞をつくる人のことも考えていることがわかった。さらには、テレビと新聞を比べ、新聞のよさに気づいている児童もいた。事後の授業では、振り返りを交流し興味のある記事を読み合う授業を行った。これまで読んでも見出しまでだった児童も記事の中までしっかり読み込んでいる姿があった。

② 4年生「わたしたちの住む県」

4年生社会科では、熊本県の特色ある地域の学習において、資料として新聞記事を使うことで学習を深めていった。

まず、地元新聞の「まち・ひと・暮らし」のページを取り置きしておいた。その中で学習した「国際交流のさかんな地域」(八代市)「自然を生かしたまちづくり」(天草市)「焼き物を生かしたまちづくり」(荒尾市)の学習で、特色を生かしたまちづくりの記事を活用し、紹介していった。

今後の学習のまとめとして、自分の調べたい市町村を、これまでの学習を通して調べた視点でまとめていく。(人口や気候、自然環境、産業や観光など)

調べるにあたり、取り置きしてある記事を教室いっばいに広げ、「自分の調べている市町村を探そう」と声かけをした。

記事から自分の調べている市町村を見つけ、見出しを見ながら児童同士で積極的に交流している姿が見られた。「もっと調べてみたい」という意欲が出てきたところで、学年のまとめとして「自分の調べたい市町村を新聞にまとめて紹介しよう」と目標を設定していった。



新聞記事から調べている様子①

今後、関連する市町村の記事を見つけて、考察を加えていく予定である。「まち・ひと・暮らし」のページでは、おもにまちをよくするための取り組みが取り上げられている。主体的に社会に関わり、よりよい社会を築こうとする公

民的資質を養うことにもつながると考え取り組んでいる。



新聞記事から調べている様子②

3 成果 (○) と課題 (●)

- 新聞を設置する場所を工夫したことで、学校全体で児童が新聞記事を手に入る機会が増えた。また、友だちと一緒に読むことで、記事について自然と会話し、お互いの表現力を高めようとする姿があった。
- 朝活動において新聞スピーチを取り入れたことで、新聞記事を丁寧に読む姿が見られた。また、短くまとめるために友だちと話し合い要約する姿も見られた。
- 委員会新聞に取り組んだことで、参考にするため、新聞を読む姿が見られた。また、記事をつくるために児童が進んで委員会活動を盛り上げようとする姿も見られた。
- 付箋討論に取り組んだことで、進んで児童が記事を読み、それについて議論する姿が見られた。また、異学年での交流にもつながっていた。
- 社会科の学習で、地元の記事、町の特徴を生かしていく具体的な取り組みの記事から探す活動を通して、まちをよくしていく活動に目を向けることができた。
- 授業に新聞を活用することで、記事を丁寧に

読み、それを根拠に議論する姿が見られた。
また、そこから新聞記者の思いや新聞作成の方法についても興味を持つ姿があった。

- 新聞記事を活用する授業を構想することに少し難しさを感じた。しかし、新聞社のホームページやN I Eの実践についてのデータを参照することでたくさんのヒントを得ることができた。
- 授業実践においては全ての学級で行うことはできなかった。これだけの成果を得られる実践なので、来年度以降も広げていきたい。

4 終わりに

N I E実践指定校の指定を受けて2年経った。手探りで実践を進めていったが、とても高い教育的効果を感じた。総務省から出された「令和5年度情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査」によるとメディアの信頼度は全世代平均では新聞が1位となっている。児童にとって関わりの少ない新聞だが、新聞と関わり、新聞記者の気持ちや思いを考える授業を行うことで、メディアの中での新聞の必要性を感じる取り組みになっていた。その過程で学習意欲や表現力を高める場面もたくさんあった。N I E教育がこれからの未来を生きていく児童にとって重要な役割であることを改めて感じた2年間であった。

新聞を活用した読解力・表現力を高める取り組み

菊陽町立菊陽南小学校 職員一同

1 はじめに

本校は、学校教育目標である「学び、考え、行動する南っ子」のもと、職員が一体となって、日頃から児童への教育活動に取り組んでいる。

本校は、全校児童107名の小規模校である。学校の特色を活かしながら、「縦割り班活動」に力を入れており、授業での学習活動や休み時間など、さまざまな機会而异学年交流を行っている。その成果もあり、児童が温かい雰囲気ですchool生活を送ることができている。

半面、児童の学習の様子から課題も見られる。その最たるものが、文章から情報を読みとったり、概略をつかんだりする『読解力』や、自分で考えたことを書いたり、話したりする『表現力』である。そのため、令和7年度のNIE実践のテーマを「新聞を活用した読解力・表現力を高める取り組み」とし、職員一同、新聞を使った学習の工夫を少しずつ考えてきた。以下、本校が取り組んだ今年度の活動の実践を報告する。

2 具体的な取り組み

(1)新聞に親しむ環境づくり

私たちが幼いころは家庭でも身近にあった新聞だが、現在は、新聞の購読者数は減少しているというデータがある。実際に、学級で「新聞をお家でとっている人?」と聞くと、「新聞をとっています」と答える児童は、半数に満たない状況だった。そのため、まずは、新聞に興味をもつことから始めようと考え、図書室前の廊下に、「新聞コーナー」を設置し、各社の新聞を毎日置くようにした(写真①)。すると、児童は、自分の興味のある記事や写真、キャラクターのイラストなどを探さようになった(写真

②)。また高学年の児童の中には、自分の興味のある記事を読んだ後に、近くにある記事にも目を通して見られる様子も見られ、世界の情勢や国内の出来事や政治の様子について、児童が新聞を通して、自身の知見を広げている姿を見ることができた。



写真①:新聞コーナー



写真②:新聞を見て話をしている児童の様子

(2)新聞を活用した学習活動

①低学年での取り組み

本校では、週に1回朝活動の一環として、「国語タイム」として、児童の読解力や表現力を高める活動の時間を設定している。今年度はその中で、新聞を活用したワークシートに取り組んだ。新聞の記事を読んだり、写真を見たりしな



写真⑥：新聞で1㎡の広さを作る児童



写真⑧：児童が家庭から持ってきた新聞記事

③高学年での実践

【総合的な学習の時間】

6年生の総合的な学習の時間では、平和学習で、新聞の活用を行った。担任が集めた戦争や平和について書かれている記事を児童に提示した。児童は記事を読むことで、戦争の歴史を知ったり、自分の考えをワークシートにまとめたりしながら、学びを深めることができた(写真⑦)。

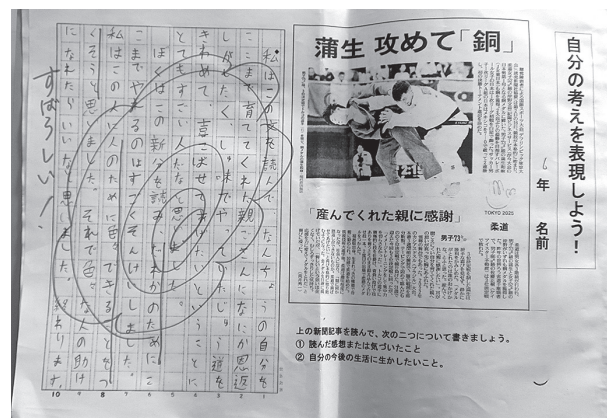


写真⑦：戦争についての記事を読む児童

また、自宅で新聞をとっている児童が「原子爆弾」に関する記事を学校に持ってくるなど、学校で新聞を活用したことで、児童が主体的に情報を集めようとする意欲が芽生え、平和学習の学びを深めようとしている様子うかがえた(写真⑧)。

【家庭学習】

高学年の家庭学習で、新聞記事を活用したワークシートに取り組んだ。新聞記事を読み、内容の概略を書いたり、記事の内容と児童自身の生活を結び付けて考えたことを書いたりといった内容である(写真⑨)。初めは、記事の内容の把握をしたり、何を書くときよいか分からなかったりした児童が多かった。しかし、定期的に同じ形式のワークシートに取り組み、教師が添削や指導、助言を行ったことで、少しずつ児童の解答に改善が見られた。継続した取り組みが、児童の読解力や表現力の向上につながったと考えられる。

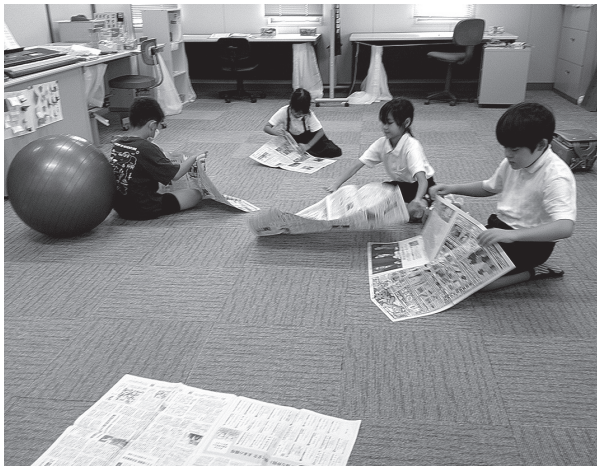


写真⑨：児童が家庭学習で取り組んだワークシート

④支援学級での取り組み

【自立活動】

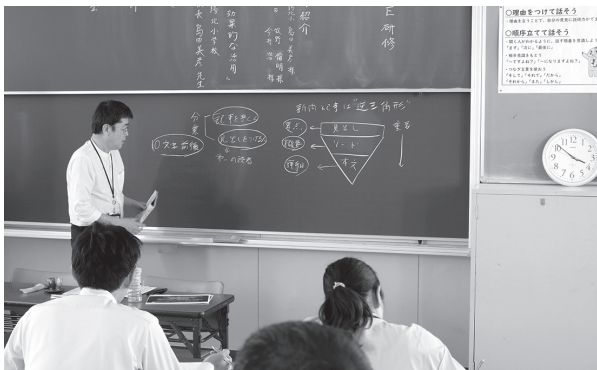
支援学級では、自立活動の時間に新聞を使って、活動を行った（写真⑩）。新聞で遊んだり、工作をしたりしながら、ソーシャルスキルを養うことを目的としたものである。児童は協力して活動しながら、友達と上手にコミュニケーションをとるための学びを深めることができた。また、新聞を使って工作をしている際に、「あ、トランプ大統領だ！」や「この場所行ってみたいな」など、世界や日本の情勢に少しずつ興味を持つ様子も見られた。



写真⑩: 自立活動の様子

(3)職員に向けた研修

今年度、本校は、NIE実践指定校1年目である。そのため、まずは新聞を活用するための



写真⑪: 校内研修の様子

土台づくりを教師が行うために、NIEについての研修を校内研修の中で行った。講師として、熊本日日新聞社の記者経験者と他の協力者に来校していただいた（写真⑪）。講話の中では、新聞社が、どのように新聞を作成しているかや新聞を授業に効果的に活用する方法などを学ぶことができた。

3 成果と課題

(1)成果

- 新聞を活用したワークシートに継続して取り組んだことで、児童に少しずつ読解力や表現力の向上が見られた。熊本県学力学習状況調査においても、学校全体を通して、「書くこと」の正答率が昨年度に比べ、大幅に上昇した。
- 授業で新聞を使うことで、普段新聞を読まない児童が、記事にふれる機会が多くなった。加えて、記事を読むことで、児童が普段あまり気にかけていない、国内や世界の情勢を知るきっかけとなり、知見を深めている様子があった。

(2)課題

- 新聞を授業に取り入れることに取り組んできたが、校内の実践がまだ多くはない。今後も教材研究を続けながら、効果的な新聞の活用方法を模索していきたい。
- 新聞を読む時間や頻度について、児童の間で個人差がある。多くの児童に対して、新聞にふれあう時間を作るためにも、日ごろの掲示や啓発活動に力を入れていきたい。

4 終わりに

今年度NIE実践校1年目として、活動を行ってきた。まずは、児童が新聞に親しむための土台作りとして、学習や学校での日常生活に

新聞を取り入れることに尽力してきた。手探りの中での取り組みではあったが、児童は新聞を読むことで、記事の概略を把握したり、記事と自分の考えを重ね合わせて、文を書いたりすることが少しずつできるようになった。これは児童の読解力や表現力を向上させるために、とても効果的な取り組みであったと考える。また、具体的な取り組みや成果でも述べたが、新聞記事を読むことで、児童は自分が今まで興味をもっていなかった国内や世界の情勢について知り、考えを広げることができていた。

来年度は、N I E実践校2年目として、児童の学びを深めることができる新聞の活用方法について更に考えていく必要があると考える。また、現在本校で設営している新聞コーナーに関しても、ブラッシュアップを重ねながら、新聞に興味をもたない児童が、立ち止まって記事に目を通すような工夫や仕掛けを考えていきたいと思う。

「主体的な子どもの育成」を目指して～NIEの実践～

熊本市立向山小学校 職員一同

1 はじめに

本校は「一人一人が輝く楽しい学校 自ら考え主体的に行動する人を育む教育の推進」を学校教育目標に掲げている。研究主題を「主体的な子どもの育成」として、学習の意欲を高める「課題設定」の工夫、子どもが主体的に話し合う「対話」の工夫、子どもが自ら学ぶ「学び方」の工夫という3つの柱をもとに研究している。

今年度より、NIE実践指定校として、本校の研究主題にもある「主体性」を高めるための新聞活用を進めてきた。進める中で、職員で話し合い、どのような新聞活用が効果的で子どもも職員も楽しく学ぶことができるかを考えた。具体的な取り組みや授業について以下に述べる。

2 NIEタイムでの取り組み

今年度は本校では、新聞を活用して子どもの主体性を高める時間をNIEタイムと位置付けている。各学年、発達段階やカリキュラムに応じて活動している。各学年がどのような活動をしているのかをここに紹介する。

① 1年生の取り組み

週に1回国語の授業の最初の時間を使って「カタカナビンゴ」を行っている(写真①)。教師が新聞の見出しを児童に伝えて、児童が記事に出てくるカタカナを予想し、ビンゴカードに記入する。教師が記事を読むのを聴き、記事を目で追いながら、カタカナを探し、出てきたカタカナに丸をつける。また、ビンゴの後、教師が記事についてのクイズを数問出した。取り組み後、「ダルマづくりや車掌体験の記事を読んで、やってみたいと思った」や「学習発表会の

成功のためにダルマを作りたい」と感想を持つ児童がいた。



写真①

② 2年生の取り組み

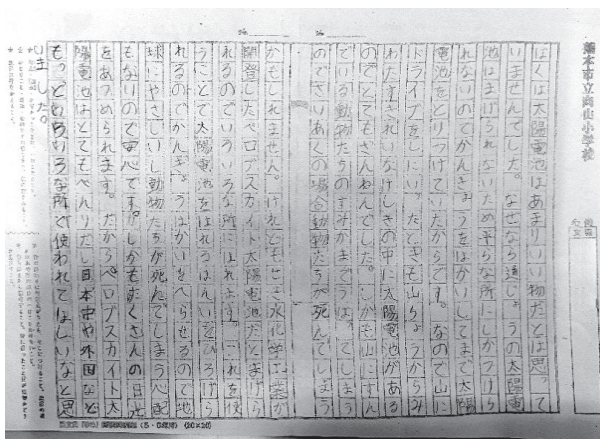
週に1回業間の時間に新聞社作成のNIEワークシートを活用し、音読と読み取りの練習を行っている(写真②)。まず、新聞記事を声に出して読み、意味や分からないところを全体で共有し、解決していく。その後、読み取りの問題を3問程度解き、答え合わせをしていく。生き物の記事など子どもたち自身も興味がありそうな記事を選ぶことで、主体的に読もうとする姿が見られるようになった。



写真②

③ 3年生の取り組み

週に1回宿題として新聞を読んで記事に対して考えたことや学んだこと、感想などを書く実践を行っている(写真③)。「次世代の太陽電池登場」という記事を読んだ子どもは「太陽電池というものを初めて知りました。ペロブスカイト太陽電池はこれまでの太陽電池と違って曲げられるので日本の誇る技術を知られてよかったです」や「外を歩いた時に太陽電池がないか探してみようと思いました」と感想を書いていた。初めて知ったことについて、「もっと知りたい!」や「私が見つかったことも新聞に書きたくなった」と書く意欲が高まった子どもも見られた。



写真③

④ 4年生の取り組み

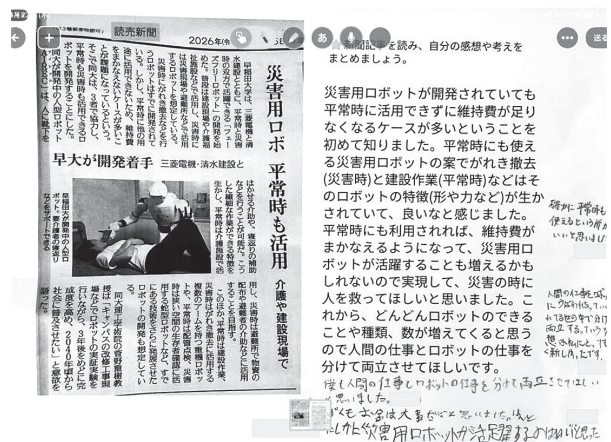
週に1回業間の時間に1つの記事を読み、記事の要約と考えたこと・感じたことをタブレット端末に記録した。「お年玉はキャッシュレスで」という記事を読んだ児童は、「こんなにキャッシュレス化が進んでいることにびっくりしました」、「私は現金がいいです」と、自分の経験と関連付けながら感想をまとめていた。子どもたちが考えをまとめたものは廊下に掲示し、面白い記事や新しい考えに出会うことができている(写真④)。



写真④

⑤ 6年生の取り組み

日常の宿題に新聞記事を読む活動を加えた。タブレット端末で配布した新聞記事を家で読み、自分の思いや考えをつづる。翌日の国語の時間に印刷した宿題を児童同士が読み合い、感想交流をして、記事の理解をさらに深める。最後に感想文を友達のシートに書き、それを廊下に掲示することで、学級を超えていろいろな考えを読み合うことができるようにした(写真⑤)。同じ内容の記事でも児童によって関心のある部分が異なり、感想文を書き合うことで多角的な視点から考えを交わすことにつながった。



写真⑤

⑥成果（○）と課題（●）

- NIEタイムで扱っている新聞記事は職員が子どもの興味に合わせて取捨選択しているため、子どもが自然と新聞記事を読んでいる。
- 読まないといけない課題を出しているのに、音読に必要感が生まれている。
- 宿題で取り組むと個人差が生まれやすい。来年度は学校で統一して日課にNIEタイムを組み込む等の工夫が必要だと考える。
- どのような力が身についたのかを把握する評価方法が難しい。学年での大まかな系統性と身につけたい力を決めた方がやって終わりではなく、評価まで行うことができると考える。

3 授業実践紹介

5年生・社会科

単元名「情報を伝える人々とわたしたち」

単元の目標

- ・放送、新聞などの産業は、国民生活に大きな影響を及ぼしていることを理解できる。
- ・情報を集め、発信するまでの工夫や努力などに着目して、放送、新聞などの産業の様子を捉え、それらの産業が国民生活に果たす役割を考え、表現することができる。
- ・わが国の情報産業について、予想や学習計画を立て、主体的に学習問題を解決しようとしている。

①児童の実態

情報機器の発達により、SNSでは様々な情報が流れている。本学級の児童もSNSから様々な情報を取得している。児童の日常の会話の中に、「昨日、(アプリ名)で見たんだけど…」とその情報が正しいのかどうかを確認もせずに友達に話す児童が少なくない。社会科の授業で

調べ学習する際も、タブレット端末で検索し、検索ページの1番上にある「AIによる回答」やどこが出典か分からないグラフ等を根拠として発表する人も多い。

②実践のねらい

本実践を通して、新聞社は国民に正確な情報を分かりやすく速く伝えるために多種多様な情報を収集し、選択・加工していることや社会の出来事をより多くの国民に伝えるためにインターネットなど様々な情報媒体を活用していることを理解し、情報の受け手として、確かな情報を収集・選択し、様々な観点から比較して適切に判断できる児童の育成を目指している。

③実践の概要

本単元の時数 12時間

- ①どうして正確な新聞を作ることができるのかを理解する。(4時間)
- ②正確な情報が載っている新聞なのに、なぜ購読者数が減っているのかを考える。(1時間)
- ③熊日電子版とは何なのかを調べる。(3時間)
- ④新聞社はなぜ無料でニュースを見ることができるようになっているのかを考える。(3時間)
- ⑤これからの情報の受け取り方について自分の考えをまとめる。(1時間)

④実践の具体

児童は実践の概要に記されている①～③で熊本日日新聞社が正確な情報を発信するために丁寧な取材やファクトチェックを複数回行っている事実を知り、さらに熊日電子版を通して様々な人に速く情報を届けていることに気づいた。実践の具体として④について詳しく書いていく。子どもたちに熊日電子版では有料記事なのに、(yahoo!ニュースなど)他社の無料ポー

タルサイトにある同じ記事を提示した。

子「これって同じ記事？」

子「記事の内容は全く一緒だ。同じ人が書いてあるよ」

子「どうして熊日新聞社の人たちは無料で見られるようにしているのだろうか？」

【学習問題】なぜ熊日新聞社は無料でニュースを見られるようにしているのだろうか。

学習問題ができれば、子どもたちは予想をした。子どもたちの予想は「たくさんの人に熊日の記事を見てほしいから」「熊日電子版の広告・宣伝になる」「ポータルサイトを作っている会社からお金をもらっている」という3つに分類された。子どもたちはタブレットで自分の意見の根拠になる資料を調べた。その後、調べたことを発表し合った。その中で、「お金儲けをしたいのならもっとポータルサイトに載せる記事（無料記事）を増やせばよいのに」という発言を取り上げ、ポータルサイトに載せる記事の数の妥当性について話し合った。

子「情報の受け手としてはもっと増やしてほしい」

子「熊日新聞の宣伝にもなるからもっと増やしたほうが良い」

子「でもそうすると、無料記事だけ見て、熊日電子版の会員数は増えないのではないかな」

話し合いの中で新聞社側と情報の受け手側の立場に立って考えることができた。この授業の後、「あなたは将来、情報にお金をかけますか？」と聞いた。

↓情報にお金をかける子どもたちの意見

真実かどうかわからないから新聞などを見て情報を確かめたいしYahoo NEWSやテレビは自分が確かめたい情報がすぐに見れると限らないと言う事だから、記事を検索できるような熊日電子版とかが良いと思いました。	理由 無料で見れない物があるかもしれないし有料だと見れる量が増えるかもしれないから。
--	---

↓情報にお金をかけない子どもたちの意見

Yahoo!ニュースとか無料のサイトでどの新聞社から記事が来ているかを確認して見ればいいし知っておきたいニュースとかもあるからテレビとか無料のサイトを見て情報を手に入れる方がいいと思った。	<意見> 私は、無料の記事だけで生きていきます。 <理由> わざわざお金をかけなくても正確な情報は手に入れられると思うからです。嘘やデマに気をつけてインターネット（テレビ、Yahoo!ニュース、Google）などを見れば正確な情報を手に入れられるからです。
--	---

⑤成果（○）と課題（●）

- 子どもが調べ学習をする際に、出典を意識するようになった。
- 新聞という子どもにとって身近ではないものが単元を通して少しずつ身近になってきた。
- 新聞紙が正確な記事を書けていることは子どもたちは理解はしているが、その正確性が自分たちにとってどのような影響があるのかを感じ取ることが難しかった。例えば、学級活動の授業で、インターネット上の偽情報等の危険性について考えることができていれば、新聞の正確性の良さに気づける児童が増えたのではないかと考える。

4 おわりに

NIE実践指定校としての指定を受け、1年間取り組んできた。職員の中で、話し合い、どのような方法でNIEに取り組むことが子どもたちにとって、そして職員にとってより良いのかを考えた1年目であった。今年度の最後には、来年度のNIEについて全職員で話し合い来年度の活動の方向性を決めていきたい。そして、来年度はさらに子どもの主体性を高めるために実践を続けていきたい。

社会に関心を持ち、自分の見方・考え方を豊かにする新聞活用の実践 ～佐賀県の先進中学校の実践をもとに～

熊本市立芳野中学校 職員一同

1 はじめに

本校は、熊本市西区に位置する在籍生徒42名、職員20名の小規模校である。昨年度よりNIE実践校の指定を受け、1年目は新聞に慣れ親しむことを目標に、取り組みを行った。その中で、社会に目を向け、その現状を新聞から読み取ろうという生徒の意欲を高めることができた。

一方、新聞記事をもとに、生徒自身が自分の考えを深める工夫や、職員全体で取り組むシステム作りが、課題として明らかになった。

これらの課題と先進校視察を踏まえ、今年度は次の2点に、重点的に取り組むことになった。

- ①全学年で、新聞に触れる時間の確保
- ②職員の役割分担を明確にした組織作り

これら2点を踏まえた2年目の、取り組みの実践を紹介する。

2 具体的な取り組み

(1)職員研修における、先進校視察による学びの共有

昨年度末の2月に、本校と同じ小規模校でNIE先進校の、佐賀県嬉野市立吉田中学校を視察した。吉田中学校の研究主任兼教務主任から、詳しい実践内容を伺った。

特に参考になったのは、以下の2点である。

①見通しを持った生徒の活動時間の確保

吉田中学校では「新聞を読む・まとめる・交流する・共有する」という活動の流れを「NIEタイム」と名づけて、1カ月、1年間の中に位置づけ、生徒の活動時間を確保されていた。

②役割分担を明確にした職員の組織作り

吉田中学校では、生徒の活動を継続して支え

るために、教師の役割を「NIEタイム担当」「環境整備担当」「放送スピーチ担当」の3つに分け、全職員で取り組む明確な組織作りが行われていた。

また、生徒たちの朝の「NIEタイム」活動も、見学させていただいた。

本校と同じ小規模校の実践を見学し、資料もたくさんいただいたことで、次年度の実践につながる、多くの学びを得ることができた。

さらに、視察での学びを校内研修で共有したことにより、全職員で次年度の具体的な取り組みのイメージを共有できた。

(2)全学年による「新聞講座」の受講

今年度のNIE活動を進めるにあたり、昨年度の活動を踏まえたNIE活動の意義を、全校生徒と共有した。

また、「NIEタイム」の前週に、熊本県NIE推進協議会事務局から記者経験のある担当者を講師として招き「新聞の読み方と伝える側の工夫」を、全校生徒で学ぶ機会を設けた。



NIE専門委員の講師による講座の様子

当日は、熊本日日新聞社のNIE専門委員による「講座形式」で「新聞の読み比べ」や「見出しを考える」などを学ぶ活動を通して、生徒は新聞を読む楽しさを実感できた。

また、作る側の立場から専門的な知識を直接学ぶことで、記事を伝える立場の「意図や工夫」を考える大切さも、学ぶことができた。

NIE活動の意義の共有とNIE講座を通して、生徒自身の活動への意欲が高まり、活動に取り組む新たな視点を獲得することができた。

(3)年間を見通した「NIE週間」の位置づけ

吉田中の実践を参考に、年度末に教務主任を中心に、ひと月の中の1週間を「NIEウィーク」として位置づけ、次年度の年間カレンダーの検討を行った。

また、「NIEウィーク」の間は45分の短縮授業で活動時間を生み出し、1日の中に「NIEタイム」を位置づける「NIE日課」を作成した。

日課表 ※45分授業 NIE活動:30分間				日課表 ※45分授業 NIE活動:25分間			
	特A	B	特B		A	特A	
朝の会	8:15 ~ 8:18	8:15 ~ 8:18	8:15 ~ 8:18	朝の会	8:15 ~ 8:20	8:15 ~ 8:20	
職員会議	8:20 ~ 8:35			NIE活動	8:20 ~ 8:45	8:20 ~ 8:45	
朝の会	8:35 ~ 8:45	8:20 ~ 8:30	8:20 ~ 8:30	第1校時	8:50 ~ 9:35	8:50 ~ 9:35	
第1校時	8:50 ~ 9:35	8:35 ~ 9:20	8:35 ~ 9:20	第2校時	9:45 ~ 10:30	9:45 ~ 10:30	
第2校時	9:45 ~ 10:30	9:30 ~ 10:15	9:30 ~ 10:15	第3校時	10:40 ~ 11:25	10:40 ~ 11:25	
第3校時	10:40 ~ 11:25	10:25 ~ 11:10	10:25 ~ 11:10	第4校時	11:35 ~ 12:20	11:35 ~ 12:20	
第4校時	11:35 ~ 12:20	11:20 ~ 12:05	11:20 ~ 12:05	給食	12:25 ~ 13:00	12:25 ~ 13:00	
給りの会	12:25 ~ 12:40	12:10 ~ 12:25	12:10 ~ 12:25	部活	13:00 ~ 13:25	13:00 ~ 13:25	
給食	12:40 ~ 13:15	12:25 ~ 13:00	12:25 ~ 13:00	部活	13:30 ~ 13:45		
休み	13:15 ~ 13:40	13:00 ~ 13:25	13:00 ~ 13:25	第5校時	13:55 ~ 14:40	13:30 ~ 14:15	
部活		13:30 ~ 13:45		第6校時	14:50 ~ 15:35	14:25 ~ 15:10	
第5校時	13:45 ~ 14:30	13:55 ~ 14:40	13:30 ~ 14:15	給りの会	15:40 ~ 15:55	15:15 ~ 15:30	
第6校時	14:40 ~ 15:25	14:50 ~ 15:35	14:25 ~ 15:10	職員会議		15:35 ~ 15:45	
NIE活動	15:35 ~ 16:05	15:45 ~ 16:15	15:20 ~ 15:50	月曜のみ			
部活	16:10 ~	16:20 ~	15:55 ~	NIE活動	16:00 ~	15:50 ~	

【資料1】NIE日課 1学期(左) 2学期(右)

生徒の活動時間の確保により、新聞を読み、自分の感想や考えをまとめる活動に、意欲的かつ継続して取り組めるようになった。

2学期からは朝自習の時間25分間で、集中して活動に取り組み、1日を落ち着いて、静かに始めることもできた。

(4)「NIEタイム」の取り組み

吉田中の実践を参考に、「NIEウィーク」の流れを、次のような4コマで設定した。

- ①いろいろな新聞記事を読み、その中から自分が気になり、友達に紹介したい記事を1つ選ぶ。
- ②自分が気になった記事の内容と、記事についての感想や考えをまとめる。
- ③選んだ記事の内容と自分の感想・考えを、クラスで交流する。
- ④各学年代表のスピーチを放送し、全学年で記事の内容と感想・考えを交流する。

()月のNIEタイム ② ()年()号()

【めあて】 選んだ記事の内容と感想や意見をまとめ、発表の準備をしよう

【タイトル(見出し)】 ★いくつかある時は、「大きな字の見出し」から順に書こう。

【ジャンル】 ★選んだ記事が当てはまるジャンルを、○で囲もう。(いくつでもOK)
 A. 社会・生活(事件・事故・人の喜怒哀楽に関わること) B. 健康・スポーツ C. 政治・経済
 D. 文化・芸能・歴史・教育 E. 国際 F. 地域(熊本市・熊本県・九州沖縄・全国) G. その他

① 記事の内容をまとめよう
 ★意見の記事(インタビュー・有名人や専門家の話)は、「だれが・何について・どのような立場で・どんな理由や意見」を
 ★出来事の記事は、「5W1H(いつ・どこで・だれが・何をした・なぜ・どんな様子で、どのようにした)」を 意識しよう。

② 選んだ記事についての感想や意見を書こう。
 ★この記事を読んで私は、～ことを思った。(考えた)～する方がよいと思う～するべきだ。私もこれから～したい。 など

【今日の振り返り】 よくできた ←→ 努力が必要
 ・選んだ記事について、自分なりの感想や意見を持ち、まとめることができた。 4・3・2・1
 ・言葉での振り返り(選んだ数字の理由・気づき・わかったこと・学んだこと・疑問・次回への意気込みなど)

()月()日のNIEタイム ③ ()年()号()

【めあて】 気になった記事を伝え合い、友達と交流しよう。

1. 発表の順番を決め、自分が選んだ記事の内容と、選んだ理由や感想・意見を、友達に伝えよう。
2. 友達が紹介してくれた記事の発表を聞き、自分が「わかったこと」「気づきや感想」を書こう。
(横の友達と交流・前後の友達と交流・グループで交流など)

① ()さんの発表を聞いて、わかったこと・気づきや感想

② ()さんの発表を聞いて、わかったこと・気づきや感想

③ ()さんの発表を聞いて、わかったこと・気づきや感想

3. 友達が自分に伝えてくれた感想を聞いて、感じたことや思ったことは？

4. 今月のNIEタイムの「振り返り」をしよう。 ★数字を○で囲もう
よくできた ← → 努力が必要

- ① 多くの記事を読み、その中から自分が気になった記事を選ぶことができた。 4・3・2・1
- ② 選んだ記事について、自分なりの感想や意見を持ち、まとめることができた。 4・3・2・1
- ③ いろいろなジャンルの記事を知ること、世の中への関心を高めることができた。 4・3・2・1
- ④ 友達の感想・意見を聞き、自分のものの見方や考え方を豊かにすることができた。 4・3・2・1
- ⑤ 新聞を読む活動を通して、いろいろな教科の学習にも関心が高まった。 4・3・2・1

★言葉で振り返ろう。(数字の理由・今月のNIEタイムで学んだこと・先月と比べた気づきや進歩・次回への意気込みなど)

【家の方より】 お子様を選んだ記事についての感想・親子で話したこと・お気づきなどをあれば、一言お願いします。(見ました・サインのみでも、構いません)

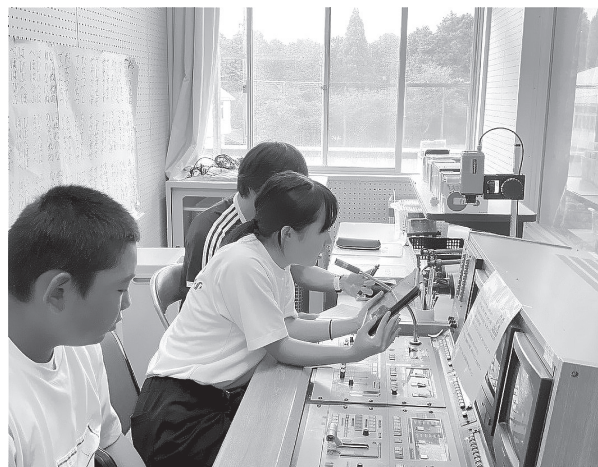
【NIEタイムワークシート】



新聞を読む時間の様子

また、聞き取りテストも兼ねて、スピーチ内容に関する「聞き取りクイズ」を取り入れた。

これにより発表する側と聞く側双方の意欲が高まった。放送後は「スピーチ」の感想を掲示し、次回の「NIEタイム」へ意欲をつなげた。



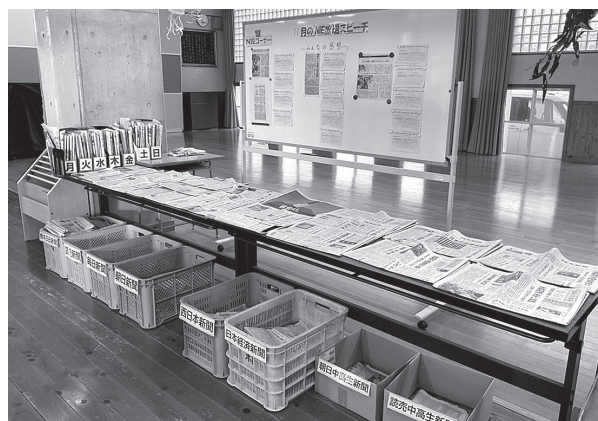
放送室からの「スピーチ」の様子

さらに、今年は戦後80年に当たる節目として「戦争」や「平和」にまつわる記事が多く取り上げられていたため、夏休み後は「戦争と平和」のテーマで、活動に取り組んだ。

社会のニュースに自ら触れる時間が少なくなった生徒たちは、様々な視点から取り上げられた「戦争と平和」に関する記事を通して、戦時中を生きた方々の思いや歴史に触れ、自分の生活や平和について、考えを広げたり、深めたりしていた。

(5) 職員の役割分担による取り組み

吉田中の実践を参考に、生徒のNIEの活動を支えるために、次のように職員の役割分担を行い、取り組んだ。



NIEコーナーの様子

①環境整備班

各学年前の廊下に設置した「NIEコーナー」に、毎日届く各社の新聞を並べ、生徒・職員が、いつでも手に取って読めるように展示・保管した。

また、職員が気になった記事に付箋を付けてコメントを記入することで、生徒が記事を選ぶ際の参考にできるようにした。

②「NIEタイム」班

「NIEタイム」で生徒に配布する新聞の準備と、ワークシートの印刷・配布を行った。

また、25分の限られた時間でスムーズに交流できるように、生徒の支援も行った。

生徒たちに「報道文を読む時の注意点」を考えさせた。

記事の読み比べを通して、立場によって取り上げる事実の選択や記述、論理展開に違いが表れることについて、理解を深めていた。

報道文を読む のときに自分の立場から見て、誰の立場の主張なのか、 （3年）（専）	報道文を読む のときに自分の立場から見て、誰の立場の主張なのか、 （3年）（専）	報道文を読む のときに自分の立場から見て、誰の立場の主張なのか、 （3年）（専）	報道文を読む のときに自分の立場から見て、誰の立場の主張なのか、 （3年）（専）
報道文を読む のときに自分の立場から見て、誰の立場の主張なのか、 （3年）（専）	報道文を読む のときに自分の立場から見て、誰の立場の主張なのか、 （3年）（専）	報道文を読む のときに自分の立場から見て、誰の立場の主張なのか、 （3年）（専）	報道文を読む のときに自分の立場から見て、誰の立場の主張なのか、 （3年）（専）
報道文を読む のときに自分の立場から見て、誰の立場の主張なのか、 （3年）（専）	報道文を読む のときに自分の立場から見て、誰の立場の主張なのか、 （3年）（専）	報道文を読む のときに自分の立場から見て、誰の立場の主張なのか、 （3年）（専）	報道文を読む のときに自分の立場から見て、誰の立場の主張なのか、 （3年）（専）
報道文を読む のときに自分の立場から見て、誰の立場の主張なのか、 （3年）（専）	報道文を読む のときに自分の立場から見て、誰の立場の主張なのか、 （3年）（専）	報道文を読む のときに自分の立場から見て、誰の立場の主張なのか、 （3年）（専）	報道文を読む のときに自分の立場から見て、誰の立場の主張なのか、 （3年）（専）

班での話し合いのワークシート

③放送スピーチ班

各学年の代表の選出、スピーチ原稿作成の支援、放送スピーチの進行を行った。

スピーチ原稿と進行は、タブレットでフォーマットを作成し、生徒と職員の負担軽減を図った。また、「聞き取りクイズ」作成においては、「聞く相手」を意識し、皆で楽しむ視点から、生徒にアドバイスをした。

役割分担と仕事内容を明確にしたことで職員の負担が分散され、「NIEタイム」の継続的でスムーズな運営ができるようになった。

(6)教科での取り組み

①国語科の取り組み

・「報道文を読もう」（新聞記事の読み比べ）

今年度は、昨年度取り組んだ授業の改善のために、市教育センター授業力向上支援員からの指導助言をもとに、「報道文を読もう」（3年）の授業で、東京パラリンピックの記事を取り上げ、「新聞記事の読み比べ」を行った。その中で、筆者の「伝え方」と「論理展開」の工夫を捉え、

・スピーチの授業の話題選び

社会に目を向け、様々な立場の意見を踏まえて自分の意見を述べる「パブリック・スピーキング」の授業において、これまで取り組んだ「NIEタイム」のワークシートや「NIEコーナー」の新聞から、話題を選ぶ時間を設定した。日頃から新聞を通して社会に目を向けていたため、話題選定がスムーズにできた。

・「いっしょに読もう！新聞コンクール」出品

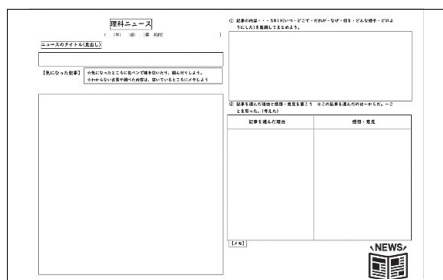
夏休みの課題として、7月の「NIEタイム」で取り組んだワークシートを清書し、全校生徒の作品を出品した。取り組んだ作品が入賞した生徒もいて、生徒たちの「NIE活動」に取り組む意欲が高まった。

②理科での取り組み

夏休みの課題の1つとして「理科ニュース」を作成させた。新聞を読んで「科学」に関する記事を選び、内容をまとめた。まとめる内

容については、日頃のNIE活動を活かし、「NIEタイム」で用いているプリントの内容と同様の形式にした。

理科ニュースへの取り組みを通して、「科学」に関する生徒の興味・関心を高めることができた。



理科コーナーの掲示

(7)委員会活動における取り組み

①記事と関連した「本紹介」と文化委員会の取り組み

図書室前に「NIEコーナー」を設けて新聞記事を掲示し、新聞記事と関連した書籍を選び、配置する「本紹介」を行った。

新聞記事を読んだり、本を手にとったりする生徒の姿が見られ、時事問題に関心を向けるきっかけ作りができた。

また、昨年度より、身近でわかりやすい「中高生新聞」を2社に増やしたことにより、毎日行う文化委員のコメント記入がスムーズになった。身近な話題や記事の感想を生徒自身が発信

することで、「中高生新聞」に興味を持ち、記事を読む姿が見られるようになった。



記事に関連した本紹介

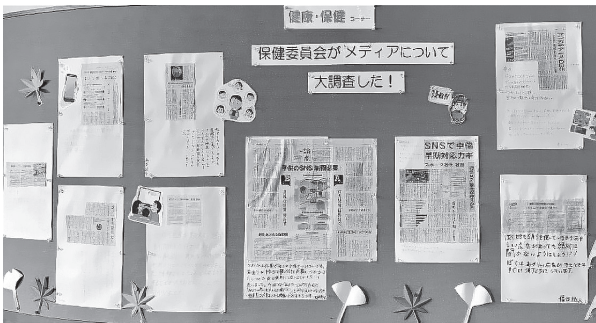
②保健委員会の取り組み

本校の今年度の健康目標「メディアの使い方に気をつけて、健康的な生活を送ろう」を踏まえ、9月の「メディアに関する講話」に向けた取り組みを企画した。そして、保健委員が「メディア」「SNS」「スマホ」「ネット」などのキーワードをもとに新聞記事を集め、コメントを書いて廊下に掲示した。

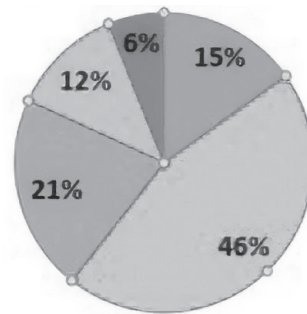


保健委員会で新聞記事をまとめる様子

新聞記事を掲示したことで、講話を真剣に聞く姿が見られ、全校生徒がメディアとの関わり方について考えるきっかけとなった。



保健室前の掲示コーナー



「よく話す・たまに話す」の合計は61%で、7%UP

3 成果と課題

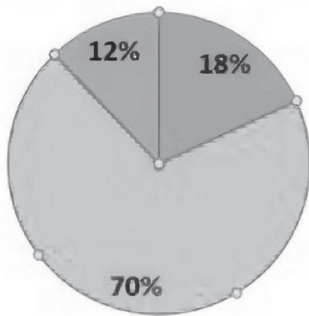
(1) 成果

取り組みを始めた5月と、取り組みを進めた12月のアンケート結果を比較すると、次のような項目において、効果があったことがわかる。

世の中で起きているニュース（出来事）にどのくらい関心がありますか？
 (「かなりある・少しはある・あまりない・ほとんどない・全くない」の5段階の自己評価)

世の中で起きているニュース（出来事）に、どのくらい関心がありますか？

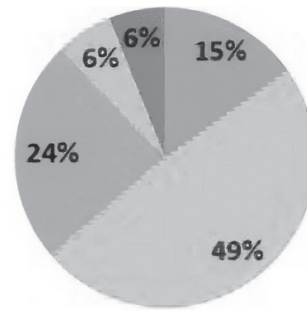
■ かなりある ■ 少しはある ■ あまりない



「かなりある・少しはある」の合計は88%で、13%UP

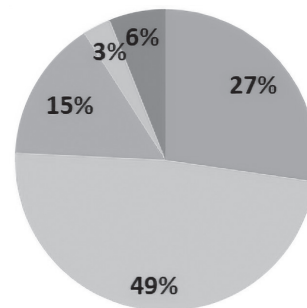
世の中のニュースについて、家族や友達と話しますか？
 (「よく話す・たまに話す・あまり話さない・ほとんど話さない・全く話さない」の5段階の自己評価)

いろいろなジャンルのニュースを知ることで、世の中への関心を高めることができた。
 そう思う 5・4・3・2・1 そうは思わないの5段階の自己評価



「5・4」の合計は64%

新聞を読む活動を通して、いろいろな教科の学習への関心が高まった。
 5・4・3・2・1の5段階の自己評価



「5・4」の合計は76%

「NIEタイム」を通して、世の中のニュースへの関心が高まり、学校や家で、ニュースに

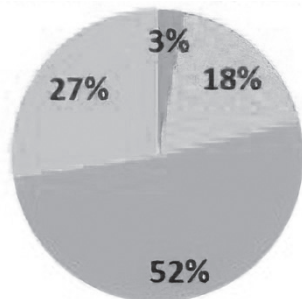
ついて話題にすることが増えたことがわかる。

ワークシートの中で「めあて」と「自己評価」を取り入れ、活動に継続して取り組んだことで、「新聞の読み方」が、以前よりも生徒自身に身についてきた。また、取り組みを始めた当初よりも、新聞を読んだり、考えをまとめたりするスピードも速くなった。

(2) 課題

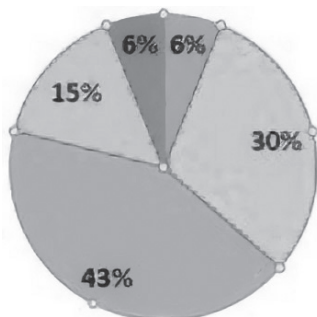
また、アンケート結果により、以下のような課題があることもわかった。

学校に置いてある新聞を読んでいるか
 (「ほぼ毎日読む・週に1~3回・月に1~3回・ほとんど読んでいない」の4段階の自己評価)



「ほとんど読んでいない」が27%

「友達の感想を聞き、自分の見方・考え方を豊かにできた。」
 (5・4・3・2・1の5段階自己評価)



2・1の合計は、21%

この結果から、時間を確保すれば新聞を読むが、確かな情報を得る方法として積極的に「新聞」を選択し、進んで世の中のニュースを知ろうとするまでは至っていない生徒がいることがわかった。また、友達との感想や意見交流を通して、自分の見方・考え方を豊かにするまでに至っていない生徒もいることがわかった。

ワークシートの中には「家庭から一言」の欄を設け、保護者にも活動の理解や意欲づけを図ったが、継続的にはできなかった。そのため、学校だけでなく家庭でも意欲を高めるような取り組みを継続すれば、さらに効果が高まったのではないかと考える。

生徒たちの活動時間を確保したこと、それを支えるためのシステム作りによって全職員で協力し、継続してNIE活動に取り組んだことにより、生徒たちは自分たちなりに、世の中への関心を高め、自分の見方・考え方を豊かにすることができた。

本校の取り組みは、小規模校だからこそできた取り組みではあるが、生徒たちにとっては大変有意義な時間であった。この活動をきっかけに、今後も生徒たち自身が、自分の学びを継続してくれることを願っている。

新聞を活用して読解力、表現力を高める実践

五木村立五木中学校 職員一同

1 はじめに

県の南部川辺川の上流に位置し雄大な自然に囲まれた本校は、全校生徒8名の小規模校である。学校教育目標「ふるさとを愛し 豊かな心と 確かな学力をもった たくましい五木っ子の育成 ～主体的に学び・考動し、よりよいコミュニケーションを図る五中生～」の実現に向けて、目指す生徒像を「相手を理解し、自分の考えを伝えることができる生徒」として定めている。校舎は県立人吉高等学校五木分校とつながっており、五木東小学校も近く、毎年5月には保小中高合同大運動会を実施している。

また、本校のグランドデザインでは、生徒に身に付けさせたい資質・能力を「主体性・多様性・表現力・想像力」と設定し、読解力・表現力の向上の手立ての一つにNIEを位置づけ、全教科・全領域で取り組みを進めている。

実践指定を受けて6年が経ち、昨年度から独自の指定校となって2年目となった。NIEのために地元紙1紙、中高生新聞2紙、一般紙5紙購読の予算を村に組んでいただき、生徒が新聞に親しむ環境の整備や、興味・関心をもった記事について語り合う時間を設定する取り組みを継続して進めてきた。全校生徒が、輪番で新聞閲覧コーナーの毎日の管理や、NIE講座・記事について話し合う時間の運営などを担当している。

これらの実践を通して、生徒たちは新聞に親しみ、情報について相手に伝える力が身に付いてきている。今年度もこれまでの取り組みを継続しながら活動内容を改善・発展させ、さらに生徒の読解力、表現力を高めるための実践の工夫に取り組んだ。

2 具体的な取り組みについて

(1) オリエンテーション

NIEの活動の意義や方法について、4月にオリエンテーションを行い、生徒が日常的に主体的に取り組む活動であることを、全校生徒に周知した(写真①)。



(写真①) NIEオリエンテーション

(2) NIE講座

今年度も、NIE事務局に2回の出前講座をお願いした。第1回講座の前半に、新聞の構成、リード文や見出し、写真の工夫について講話をいただいた(写真②)。修学旅行のある今年度は、沖縄戦に関する記事について、全国紙と地方紙を比較して読み、読者の居住地によって



(写真②) 第1回NIE講座の様子

情報を選んだり、取り上げ方を変えたりして記事にしていることを学んだ。また、米大リーグの記事について、2社の新聞を比較して読み込み、写真や見出しの違いや共通点を分析することで、焦点の当て方の違いなどについても教えていただいた。講座後半では、実際の記事を読み、見出しを考える活動をした。



(写真③) 見出しを考える活動

読者の目を引くための工夫や読者が見出しを一目見て内容を把握できるようにするための工夫について生徒は詳しく知ることができた。この活動では、記事の内容を読み込み要約するという、読解力向上への手立てのヒントとなった。また、生徒が新聞制作を行う上でもたいへん参考となる内容であった(写真③)。

(3) 体験学習新聞制作

生徒自身が行事等に参加し体験する中で感じたことを、1人ずつA3判1枚の新聞にまとめた。この活動を通して、目標の一つである表現力の向上を目指した。

本校では、ふるさと五木村の地域性を活かした体験学習を2学期に計画している。

第1学年では地域の魅力を発見するふるさと体験学習、第2学年は職業について学ぶ職場体験学習、第3学年はインクルーシブについて学ぶ福祉体験学習を実施している。このほかに、

火入れ・種まき・除草・収穫・脱穀などの焼畑体験学習、租税教育や中学生議会などの主権者教育を全校で行い、さらに1、2年生は今年度は修学旅行を行った。

これらの体験学習の成果を一人ずつ新聞形式にまとめ、第2回NIE講座で、個別に指導していただいた。第2回NIE講座では、事前に新聞のデータを送信しておき、記事の構成や見出しの付け方などを、記者のプロの視点で一人一人にアドバイスをいただいた。レイアウトの改善や見出しの付け方など、要点を絞った助言になったことで、生徒たちも改善すべき視点を明確にしてスムーズに作業を進めることができた(写真④)。



(写真④) NIE講座での新聞制作の個別指導

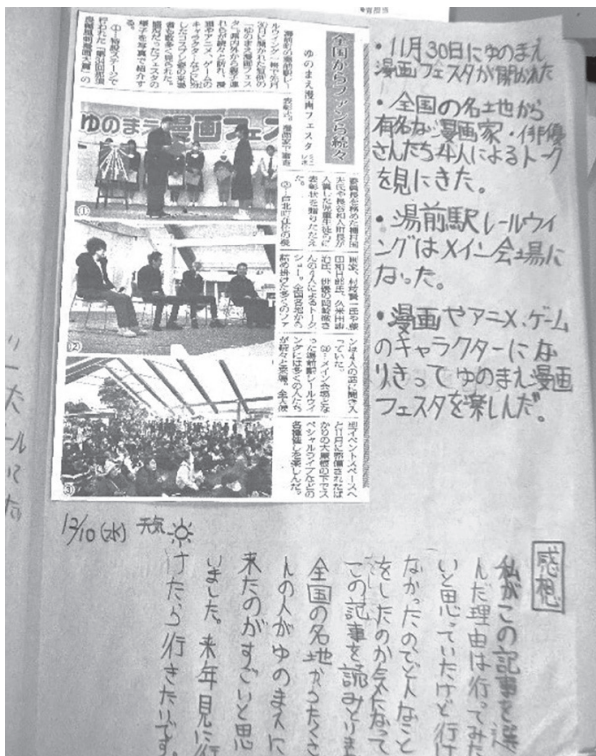
また、全体への講義として「だれが」「いつ」「どこで」「何を」「なぜ」「どのように」といった5W1Hを意識して制作することや「分割型」「X(流し込み)型」といった読者が見やすいレイアウトについても教えていただいた。このようにして完成した新聞(写真⑤)は、文化祭で掲示発表し、NIEの講師を招いて見てもらった。

制作ではMicrosoft Power Pointアプリを活用し、記事に必要な写真や制作途中の新聞等はMicrosoft Teamsアプリ内で共有し、作業の進



(写真⑦) 新聞を閲覧している生徒の様子

生徒一人一人が所有するスクラップノートには、切り取られた記事が蓄積されている。貼付された記事と一緒に、記事の要約や感想等がまとめられている (写真⑧)。



(写真⑧) スクラップノートの例

「記事トーク」では、このスクラップノートを用いて意見交流を進めた。本校では、継続してNIE活動を進めることができるよう、全校生徒で「記事トーク」を行う時間を毎週1回程

度確保している。全校生徒が輪番制で「記事トーク」の準備や司会など運営を担当している。また、この記事トークによって、異学年との交流を定期的に行えると同時に、グループワークがスムーズにでき、人前での発表にも慣れてきた。

(5) NIEワークシートの活用

毎週火曜日の朝自習に、新聞記事を活用した「NIEワークシート」の取り組みを進めている。NIEワークシートでは、記事の感想を書いたり記事の内容に関する問題を解いたり関連した記事を探したりする活動を通して、読解力の向上を目指した。NIEワークシートは、年間計画を立て、全職員が輪番制で準備した (写真⑨)。これによって、各教科の特色や、各人の興味・関心を生かした記事や様々な分野の記事にふれることにつながり、生徒がより多面的・多角的な視点から物事を考え議論するきっかけになったと考える。また、社会的な話題や生徒の関心が高い記事、五木村と関係の深い記事な

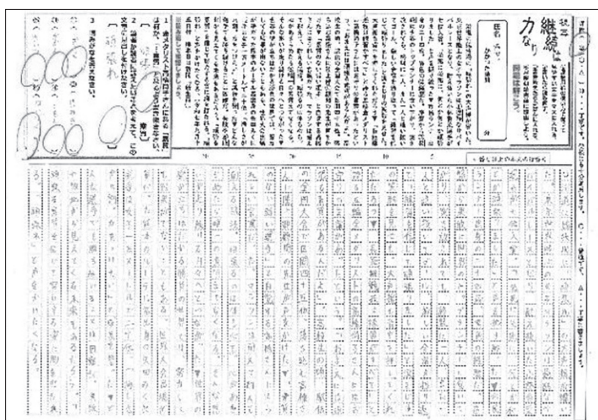


(写真⑨) NIEワークシートの一例

どは、先述した記事トークで、全校生徒統一のテーマについての意見の交流を行った。このように、NIEワークシートと記事トークのつながりを意識した取り組みを目指した。

(6) 週末視写

600字程度の新聞コラムの視写とその文章中の漢字の読みや内容に関する問題についてA3プリントにしたものを毎週末の課題として取り組んだ。視写の内容が記事トークの話題につながることもあった。



(写真⑩) 視写のワークシート

3 成果と課題

(1) 成果

- 年2回のNIE講座を通して、新聞作成においてプロからの助言により、見出し・構成・レイアウトの改善点が明確になり、新聞の質が向上した。
- 体験学習を新聞にまとめる活動を通して、生徒が情報と学びを整理し、アドバイスを生かして成果をわかりやすく読み手に伝える実践を積むことができた。多様な体験学習を題材にし、読み手を意識した記事構成や要約を行うことで、情報整理力・表現力が向上した。
- 記事トークでは、縦割り班での意見交流を継続したことで、「記事内容を要約する力」「自

分の考えを簡潔に伝える力」「相手の意図を集中して聞き取る姿勢」を育成することができた。生徒は学年の壁を越えて互いの考えを聞き合い、相手を理解しながら自分の意見を伝える経験を積むことができています。

- NIEワークシートでは、「記事の感想」「内容理解の問題」「関連記事の探索」などを通して、記事を読み取り、要点をつかむ力が育った。
- 年間計画に基づき、全職員が順番にワークシートを作成したことで、各教科の特色や職員の興味を反映した多様な記事に触れる機会が生まれた。これにより、生徒は物事を多面的・多角的に考えるきっかけを得た。

(2) 課題

- 記事トークにおいて、週1回の実施は効果的だが、準備や進行に時間がかかり、生徒の負担が大きい場面もある。また、スクラップノートにおいて、記事の貼付・要約・感想の書き方にばらつきがある。記録の質を高めるための指導の統一が必要である。
- 情報の要約や相手意識をもった表現力は向上してきたと考えられるが、新聞制作における情報活用能力や、調べたこと、体験したことを表現する文章作成能力にはまだ課題が見られる。各教科との連携がさらに必要である。
- 全体での発表については、ディベート形式を取り入れるなど、試行錯誤して新たに工夫することによって、さらなる深化が見られると思われる。

4 最後に

実践指定を受けて以来、6年にわたり本校ならではの体験活動や学びを、生徒たちの「主体性・多様性・表現力・想像力」の向上へとつな

げるためにN I Eの取り組みを進めてきた。それにより、学年が変わっても、生徒の人数等に左右されず毎年効率よく無駄のない活動を行うことができた。安定した教育効果が見られるのは、継続して取り組んできた成果だと考える。また、N I Eの活動によってたくさんの話題に触れることができるのは、小規模校の本校生徒にとって、視野を広げるために非常に有効である。

本校は、今年度で閉校し、新年度から新たに義務教育学校となる。前期課程からの日常的な活動も視野に入れながら、今後も、新聞に触れさせる環境を保っていきたい。多様な考えに触れ相手を理解する読解力や、自分の考えを整理し伝える表現力を育成するために、N I Eを進め、小規模校である本校を卒業した後も、主体的にたくましく生きる力を育むことができるよう、これまでの実績を大切にしながら活動を行っていききたい。

NIEを活用した命を守る教育の推進

熊本県立球磨中央高等学校 教諭 濱口 豪

1 はじめに

本校がNIE実践指定校を希望した最も大きな理由は「生徒の命を守る」という点にある。現在の高校生はテレビを見る時間が減少している。そのためテレビニュースを見る機会も減っている。高校生は情報を収集する際、インターネット空間を活用する。インターネット上にも新聞記事やニュースは存在する。しかし、高校生の多くはインターネットの中でもSNS（交流サイト）を活用し、情報を入手している。SNSからリアルタイムで情報を手に入れることもあるだろうが、その情報の発信源については信頼性が心配される。また今や、AIを活用し、さまざまな画像を作ることが可能となった。インターネットで手に入れることができる情報が悪意のないものであるのか、その点が疑問視される。また、判断能力が不十分である若者を騙し、危険な方向へ誘導する情報も数多く存在する。

入手可能な情報の安全性を最終的には生徒自身が判断し、活用しなければならない。そのため正しい情報を入手できる新聞の活用を生徒の生活の一部に組み込むことを目的としてNIE実践指定校となることを希望した。また、新聞を活用することで世界各国の状況や日本との関わり、国際・国内の経済状況の変化などに敏感に対応し、今後の人生において状況に応じた情報活用ができるよう生徒の成長を目指した。

2 取り組むにあたって

(1)職員全員で取り組む

まず、職員がどのようにNIEに関わっているのか、模索した。

最初に行った活動として、今まで本校の職員が授業において新聞をどのように活用してきたのか調査した。そして入手した情報を全職員に提供することから始めた。

これらの活動から職員が授業において「新聞を使ってみよう」という意思を引き出すことを目的とした。

①最初の調査

A	B	C	D	E
	授業への新聞活用状況をご記入ください。			
例	教科・科目 商業	氏名 濱口	利用状況 小論文指導として	資料 資料①
	3学年		新生面模写	
	HR		進路・小論文指導、速読練習、読書力を高めるために活用	クラスルームを活用

活用例の提示

②職員の反応

授業への新聞活用状況をご記入ください。				
教科・科目	氏名	利用状況	資料	
商業・ビジネス法規 5/2①節		法律において、どのような種類の法律を根拠にしたかを確認し、その判断は結果として、正しかったのかを生徒と考える。	クラスルームを活用	
理科・科学と人間生活		自習課題として（理科に関する記事）	クラスルームを活用	
グローバル・スタ ディーズ		新聞記事を活用して地域の課題を分析し、海外の事例と比較し解決策を考える。	目 25 3年GLS 1学 目 2025年度GLS 1学...	
公共・政経		参議院議員選挙の公示日に出た党首討論会の記事を読んで各政党の主張を理解してまとめ、主張の比較を行う。		
商業		株式市場の変動を確認		
芸術・音楽		「音楽は速すぎも遅すぎもダメ」チェチェン共和国が禁止発表	目 CNNニュース「...	

令和7年度1学期の活動例

1学期、授業での新聞活用記入を依頼したところ、職員の取り組みが上図のように報告された。

地歴・公民や商業に関して、政治や経済に関する記事が活用しやすいことがうかがえた。

また、理科に関する記事を探すなど、新聞記事を各教科へ活用できないものか、職員の意識が高まった点が確認できた。

3 本校の柱となる新聞活用

始めは手探り状態でNIEの活動を始めた。

情報を提供し、職員の活動状況を確認していくと各授業において新聞記事を活用していることがわかった。また、朝読書の時間を活用し、

全校生徒が同じ記事を読む「視読」を設けた。

- ・授業での新聞記事活用
- ・「視読」時間の設定

この二つを本年度、本校のNIEにおける柱とした。

4 授業における新聞活用

(1) 研究授業・公開授業

① 1年地域未来探究科 「現代の国語」

城 佳寿美教諭 (国語科)

令和7年11月18日 (火) 6限

現代の国語の授業を展開するなかで防災教育を取り入れる。その際、研究授業およびその直前の授業において新聞を活用した。

研究授業の展開として最初に「新聞の見方」をテーマに新聞はどのように構成されているのか、「ページでなく『面』」という部分から生徒に丁寧な説明を行った。また、この授業において各社の記事の文面を生徒に感じとらせる活動を行った。

今日の目標

- ①新聞紙面の構成を知り、情報の見方について考えよう。
- ②「防災の日」について確認し、防災と減災の違いを知らう。
- ③災害時の「デマ」について、発生のメカニズムを知るとともに、発災時にデマを発信・拡散しないための方法を考えよう。

スライド1 本時の目標

新聞紙面の構成について

細かく分けると・・・

一面 (トップページ)

- 社会に大きな影響を与えるニュースなど。
- ※政治・経済・国際など
- その日の新聞で重要なニュースが掲載される

スライド2 紙面構成 一面

新聞紙面の構成について

() 面

【掲載内容・特徴】

- ・企業の動向や株価、景気、金融などに関する記事。
- 日経平均株価や為替レート (円やドル・ユーロなど)
- ビジネス関連の特集や分析記事なども掲載される。

スライド3 紙面構成 経済面

城教諭へのインタビュー



授業風景 (城 佳寿美教諭)

問1 なぜ新聞を活用したいと思いましたか？

- ・生徒は新聞になじみがなく、まず新聞の見方を知ってほしいと思いました。
- また、新聞から得られる情報には根拠があることや、どのように構成されているのか、生徒が新聞を体感的に学びきっかけを作りたいと思い活用しました。

問2 新聞活用から生徒にどんな点を伝えたいと考えましたか？



授業風景 生徒の新聞活用1

- ・今回は防災教育との関連から9月1日の新聞を使用しました。5社の新聞を活用し、生徒が見比べ、どのような書き方をされているのか、生徒が体感的に学ぶきっかけにしたいと強く思いました。

問3 新聞活用が生徒にどのような変化をもたらしたと考えますか？

- ・今回の授業を終え、新聞ではどこに何が書かれているのか、生徒が確認できたと思います。生徒は毎週金曜日に「視読」に取り組みます。その際の感想を見ると、新聞を読むことへの意識が強くなり、現代の社会ではどのようなことに関心が持たれているのか、生徒自身が考えることに結びついていると思います。



授業風景 生徒の新聞活用2

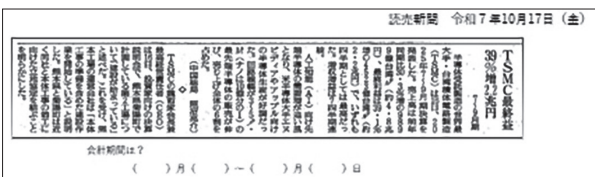
②1年情報処理科 「簿記」

井上 ほのか教諭 (商業科)

令和7年12月17日 (水) 4限

今回の研究授業では「簿記」において費用・収益の見越し、繰り延べという単元に関連し、新聞を活用した。

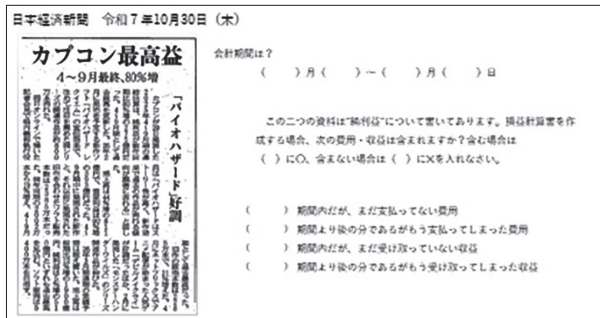
研究授業の導入において、費用収益の見越し、



資料1 TSMC決算の記事 (7月~9月期) から

繰り延べは決算時に行われる。決算の対象となる期間は会計期間とよばれ、実際の企業の決算ではどのように期間を設けているのか生徒が確認できるように新聞記事を活用した。

令和7年10月17日読売新聞より



資料2 カプコン決算の記事 (4月~9月期) から

実際の企業決算を知ろう！

①記事を読み、会計期間を記入しましょう。



7月1日~9月30日

授業でのスライド

井上教諭へのインタビュー



授業風景 (井上ほのか教諭)

問1 なぜ新聞を活用したいと思いましたか？

- ・簿記という科目が学問としてだけでなく、実際に企業活動として活用されていることを生徒に知ってもらいたいと思い、熊本への進出で注目されるTSMC（台湾積体回路製造）やゲームソフトを製作しているカプコンといった生徒にも身近な企業の記事を選び、使用しました。

問2 新聞活用から生徒にどんな点を伝えたいと考えましたか？

- ・今回は半年と四半期という2種類の会計期間の記事を使用しました。いずれの期間でも、決算時に会計処理の対象となるのは、この会計期間の始まりから終わりの間の取引であり、取引はあってもこの期間外の勘定科目の処理や、この期間に取引がなくても処理しなければならぬ勘定科目について生徒自身が想像するきっかけになればと思いました。

問3 新聞活用が生徒にどのような変化をもたらしたと考えますか？

- ・簿記では勘定科目がその性質から資産、負債、資本、費用、収益の5つのグループに分かれます。その中の2つ、「費用と収益」というグループが今回のテーマとなります。

例として費用には「保険料」という科目があります。しかし、この前払分は「前払保険料」という科目を使用し、決算時に処理します。同じ「保険料」という名称が使われるのに「前払保険料」は資産のグループに該当します。

これが生徒のつまずきにつながることも多く見られます。

今回の授業で新聞を活用したことでどのような状況が発生しているのか、生徒が考えることができたと思います。

(2) 通常授業における新聞活用

① グローカルスタディーズ（学校設定科目）

活動内容

新聞記事を活用して地域の課題を分析し、海外の事例と比較し解決策を考える。

指導者より生徒への連絡事項

3年生では、「グローバル」な視点で地域課題の解決策を考えてもらいます。新聞記事には社会の様々な課題が取り上げられています。新聞記事を活用して地域の課題を分析し、海外の事例と比較し解決策を考えてもらうことが3年生1学期の課題となります。

○提出物

- ・新聞活用課題レポート
- ・新聞活用課題スライド

○使用する新聞

- ・熊本日日新聞
- ・人吉新聞

○海外のニュースサイト日本版の参考

<https://www.bbc.com/japanese>

(イギリスのニュースサイト)

<https://jp.reuters.com/>

(イギリスのニュースサイト)

<https://www.afpbb.com/>

(フランスのニュースサイト)

<https://www.cnn.co.jp/>

(アメリカのニュースサイト)

○手順

1. 「熊本日日新聞」または「人吉新聞」から、人吉球磨や熊本県の地域課題に関連する記事を見つけ、記事の写真を撮る。
2. 記事の内容が、どのSDGsの目標に関連するかを考える。
3. レポートに記事の写真を張り付け、新聞の内容を要約する。
4. 新聞記事の内容から、地域（熊本・人吉球

な規制が発表されたのでしょうか？
考えてみましょう。

問6：テンポ80～116の範囲

(J=80～116)の曲にはどんな曲があるか調べてみましょう。

問7：なぜこのような規制が発表されたのか、「自分自身と音楽」について、このチェン共和国の「テンポ(速度)を1分間あたり80拍から116拍到制限すると発表」という記事に関連させて感想を書いてください。

新聞記事から株価を調べ、模擬取引
証券取引がある日は新聞で株価を調べ、授業の最初に記録



模擬購入した株式をPCで記録

③財務会計Ⅰ

活動内容

「財務会計に関連する言葉を新聞記事からさがそう」



職員室前NIEコーナーで

⑤プログラミング

活動内容

新聞記事からプログラムを作成



活用記事1

(2025年11月12日・朝日新聞)

④ソフトウェア活用

活動内容



株価調査中の生徒

この記事からプログラムを作成するための流れ図を作成。例としてレベルに応じたメッセージを電子メールで送信するプログラムを作成。



活用記事 2
(2025年12月11日・読売新聞)

活用記事 2 は複数の記事が記載されたものを使用。1つを選び、流れ図を作成した。その上でプログラムを作成した。

テーマ設定からプログラムの完成まで班別で取り組むが、完成するまで手助けが必要になると想像した。しかし、実際には色々な視点からプログラムを完成させ、全ての班がプログラムを発表した。

プログラム例

- ・銀行での取引案内メール送付プログラム
- ・年間のビール売上、前月比を算出するプログラムなど

5 「視読」時間の設定

毎週金曜日朝読書の時間（8:25～8:35）

全生徒が同じ新聞記事を読み、生徒用端末よりアンケートに回答する。アンケートは選択式および記述式。

記事は次のテーマを柱に選定した。

- ・ SNS インターネットの利用 (安全な利用のために)
- ・ 平和教育
- ・ 人権教育
- ・ 企業活動 (経済)
- ・ 地元地域
- ・ 共生社会の実現に向け
- ・ 国際情勢
- ・ 選挙、税金、社会保険料、年金など

現在の社会情勢について生徒に認識してほしいテーマを選択した。特に SNS の使用については本校が NIE に取り組む理由の一つでもある「生徒の命を守る」ことに関わるため、どのような危険が SNS やインターネットに潜んでいるのかを伝えたいと思い選定している。

また、国際情勢として多くの国が戦争に巻き込まれ、多くの方が亡くなっていること生徒に強く意識してほしいと思い選んだ。そして平和な国を維持する上で、生徒が的確な判断を下せる有権者になるために新聞記事から正しい知識を習得する土台を作りたいと強く思った。

① 視読実施一覧表

回	日付	新聞社	使用記事 日付	内容	
1	4/18	朝日	2016年	オバマ大統領所感全文 (広島)	
2	5/16	朝日	4/13	新卒採用「増やす」26%	
3	5/2	朝日	4/16	一筆 くま川鉄道社長 相良家に初的女性当主	
4	6/6	朝日	5/3	SNS 選挙の功罪	
5	6/13	毎日	5/22	米 広がる「反知性主義」	
6	7/4	毎日	6/24	沖縄全戦没者追悼式 知事平和宣言	
7	7/11	朝日	7/1	増えぬ手取り 増える社保料	
8	9/5	西日本	7/31	参院選回顧 識者に聞く ファクトチェック逆作用も	
9	9/12	朝日	9/1	SNS 提言条例	
	9/19	西日本	9/12	山下先生 おすすめの書きトレ 石炭首相辞任へ 新リーダー選びへ	
10	9/26	読売	9/4	インターネット上の予言	
11	10/3	日経	9/10	企業ブランド力 ヤマト運輸 3年連続首位	
12	10/10	日経	9/29	視察 外国人共生への道筋	
13	10/17	朝日	10/3	国勢調査 対面は「限界」 闇バイト警戒の住民から「不審者扱い」	
14	10/24	朝日	10/3	カリスマ創業者の残像 船井電機	
15	10/31	日経	10/16	金融教育「受けたことない」43% 社会人機会確保しく	
16	11/21	朝日	10/25	新生面 藤田邦夫さん 2.5人称	
17	12/5	朝日	11/4	地方ガス会社 異業種へ参入次々	
18	12/12	読売	12/4	NISA 対象拡充へ	
			朝日	12/4	NISA 子ども分上限600万円
19	1/16	朝日	1/4	くまにも論議 対A! 一定の距離と啓蒙を	
20	1/23	読売	1/13	「国習館」少女の戦い	
21		毎日	1/12	平和学習をもっと能動的に	
22	1/30	朝日	1/20	選挙前へイト激化	
23	2/6	読売	1/31	社説 ネット選挙 悪質な事業者をどう排除する	

その他のテーマに対する生徒の解答

テーマ 平和教育

- ・この記事は第二次世界大戦のときに広島に落とされた原子爆弾のことから人間のこれまでの戦争の歴史についてが書いてありました。「われわれは静かな叫びを聞く」という文章が強く心に残りました。この記事を読んで、私たちは戦争があったという事実を忘れてはいけなし、後世にもしっかりと伝えていきたいと思いました。また、世界中の人がお互いを思い合って過ごしていきたいです。
- ・ロシアの侵攻やイスラエルとガザ、イランなど今どンドン戦争が起きている状態で他にはテレビで見たのは、中国が台湾に攻め込むかもしれないなど世の中では怖いことが多く起きている。それに対して僕は対立になってしまうのは色々（伝統や文化、これまでの事）理由がありしょうがないと思っています。でもそこでどう話し合いをしないといけないかが大事だと思いました。爆弾を使ったりして物理的に勝って物事を終わらせるのは違うなと感じました。
- ・戦争を起こさないためにはどうするべきか、一人ひとりが考えて行動していくしかないと思う。
- ・行動じゃなくて言葉で解決する。これまであった悲惨な出来事を知ること。みんなにも家族がいると思って行動する。

テーマ 共生社会

- ・外国人に日本のルールなどを知ってもらう活動を行う。
- ・「多文化共生」という言葉だけにとどまらず、制度、社会意識、現場対応の三位一体で取り組むことが必要だと思います。
- ・共生社会を目指すためには、外国から来た人

でも日本人と同じように接することが重要だと思います。

- ・外国人であろうと障害がであろうと同じ人間として正しく向き合っていきたい。
- ・相手を思いやり、差別や偏見で行動を変えたりしない。お互いを尊重し合って行動することが大切だと思う。
- ・第一印象などで決めつけるのではなくその人の中身を知ったうえでかかわらないといけないと思うから決めつけるのではなく中身はどんな人なのかを知っていくことを意識したいと思う。

テーマ 金融教育

(親となり子どもの進学のために)

- ・効率的な資産形成のために、NISAなどを利用した投資信託の積立を行います。
- ・働くだけで稼げる額ではないと思うのでお金を銀行から借りたりなどすると思います。
- ・子供が生まれたときから子ども用の口座を作り貯めておく

テーマ 人権教育

(柳田邦夫さんの言葉2.5人称について)

- ・三人称は完璧に他人だが。2.5人称は多少なりとも関わりがある状態
- ・客観的な視点だけではなく、被害者などの視点も持ち合わせて考える状態のこと。
- ・完全な外側からの視点じゃなく、少し内側の情報についても知り、その立場から物事を見て判断すること。
- ・すべて客観的に見るのではなく、少しだけ主観的に考える状態

6 最後に

本年度本校では「授業での新聞記事活用」と

「視読時間の設定」を2つの柱としてNIEに取り組んだ。最初は、はたして職員は新聞記事を活用してくれるのかという不安は存在した。しかし、職員は自分自身で創意工夫をおこない、授業の内容に結びつけ授業で新聞記事を活用してくれた。これは授業を展開する上で教師として新たな技術の習得につながっている。その上で教師の個々の能力からみても重要な期間であったと感じる。

視読時間については、教師の目からは生徒の社会状況に対する認識や考えがうかがえた。

生徒は今まで新聞を読んでおらず、社会についてまったく興味がないのではという不安をもっていたが、生徒の解答をとおし、社会に対し、色々な知識や感情をもっていることがうかがえた。その点には指導の上での大きな喜びを感じるようになった。

生徒に対するNIEの影響としては新聞をとおし、生徒自身が社会と関わり、現実を見つめ考えるという啓発につながったと強く感じる。これが今年度の成果である。

次年度は生徒がさらに自分自身で新聞を活用することで高校在籍中だけでなく、卒業後も命を大切に、安全に生きる人生に結び付けることにつながることが課題である。

【表紙「NIEの木」について】



【NIEネットワーク熊本に参加しませんか】

熊本県内のNIE実践教師らのグループです。教材としての新聞活用のための学習会や情報交換のかたわら、NIE実践指定校の支援も行っています。

連絡先：熊本日日新聞NIE・NIB戦略室 ☎096(361)3159

2025(令和7)年度 熊本県NIE実践報告書

編集・発行 熊本県NIE推進協議会

事務局 熊本日日新聞社 販売局 NIE・NIB戦略室

〒860-8506 熊本市中央区世安1-5-1

TEL 096(361)3159 FAX 096(366)1715

Mail nie-s@kumanichi.co.jp
